

四一 生花仕入帳(横帳)

内廿五匁 風代

六月十七日 六

(表紙)
〔文化十二年〕

一、卷又五百匁 手花

生花仕入帳

代九百文

亥六月十七日 田井村今田弥兵衛

一、百三拾匁 村市助

代七十八文

六月十五日 五

内三百文渡

一、五百三拾匁 手花

一、百拾匁 同字七

代六十六文

代貳百六拾五文

一、三百六拾匁 伊右衛門

六月十六日 五五

代貳百十六文

内貳百文渡

一、七百三拾匁 手花

一、四百十匁 吉助

代貳百四十六文

二口合

内百文受取

干上百八拾匁

一、八拾五匁 与七

代五十一文

内五十文受取

一、六百七拾匁 弥次郎

代四百三十五文

一、卷メ三百五拾匁 みぞのべ 丈次

代八百七拾七文

内銀式朱渡

メ四メ六百拾匁

代式メ八百六拾九文

水

干上

六月十八日 五

一、四メ式百匁 手花

代式メ百文

一、八百匁 村左吉

代四百文

内式百文渡

一、卷メ三百三拾匁 みぞのべ源次

代六百六十五文

一、式百五拾匁 村宇七

代百廿五文

一、六百拾匁 同市助

代三百五文

一、卷メ六拾匁 伝兵衛

代五百三十文

一、卷メ三百五拾匁 同吉助

代六百七拾五文

一、六メ八百五拾匁 みぞのべ丈次

代三メ七百五拾文

内金式分渡

一、式百四十匁 荷口人

代式百廿文

メ拾六メ六百九拾匁

代八メ七百七拾文

水 拾九メ百匁

千二口合

正巻メ六百匁

風代百五拾匁

一、八百七拾匁

代四百七十八文

同市助

六月十九日 五五

一、五メ六百五拾匁

手法

一、巻メ拾匁

代六十文

同宇七

代三メ百七十五文

一、巻メ百五拾匁

村左吉

一、巻メ百拾匁

代六十文

同与右衛門

代六百三十式文

一、式百四拾匁

みぞのべ長吉

一、巻メ四百四拾匁

代七百九十式文

同吉助

代百廿文

一、巻メ六百匁

村伊右衛門

一、三メ百七拾匁

代七メ七百四十三文

同文吉

代八百八拾文

一、式百八拾匁

おつる

一、式百四拾匁

代百廿文

溝延三四郎

代百四十文

一、巻メ六百五拾匁

みぞのべ源次

一、巻メ百七拾匁

代九百七拾三文

村源六

代九百七文

一、九百匁

村伝兵衛

一、八メ三百五拾匁

代四メ六百元

みぞのべ又次

代四百九十五文

内金式分渡

一、六メ八百三拾匁 弥惣次

代三メ七百五拾六文

内金貳分渡

ノ三拾六メ三百六拾匁

代拾九メ九百六拾三文

水三拾八メ九百匁

干 九百匁七十八口入

卷メ百五匁 廿口入

合貳メ五匁

六月廿日 八五

一、三メ七百匁 手花

卷メ五百五十匁

ノ五メ貳百五十匁

代四メ四百六十貳匁

一、四百匁 村与七

代三百四十文

内貳百文渡

一、六百文 同市助

代五百十文

一、卷メ五百三拾匁 伊右衛門

代卷メ三百文

一、九百八拾匁 左吉

代八百三十三文

一、貳百三拾匁 みぞのべ長吉

代百八十四文

一、貳メ匁 みぞのべ源次

代卷メ七百文

一、七百四拾匁 村字七

代六百廿九文

内百文渡

一、七百拾匁 同伝兵衛

代六百三文

内貳百文渡

一、九百四拾匁 同吉助

代七百九十九文

一、貳百四拾文 同おつる

代百九十貳文

一、三百六拾匁 畑中新蔵

代貳百八十八文

内百文渡

一、貳メ貳百廿匁 村文吉

代壹メ八百八十七文

一、六メ拾匁 みぞのべ丈次

代五メ百文

内金貳分渡

一、壹メ六百七拾匁 村弥吉

代壹メ四百拾九文

一、四メ五百五拾匁 同弥惣次

代三メ八百六拾文

内金貳分廿一匁渡

一、四メ五拾匁 同弥三郎

代三メ四百四拾貳文

代三拾貳メ四百八拾匁

代貳拾七メ五百四十八文

水五拾メ三百匁

干上正味三メ五拾匁

外二卷メ百五十匁 十九

合 四メ貳百匁

風代貳百五拾匁

六月廿一日 八

一、六メ五百匁 手花

代五メ貳百文

一、四百拾匁 村平七

代三百廿八文

一、四百匁 同又五郎

代三百廿文

一、五百三拾匁 畑中与右衛門

代四百廿四文

一、三百五拾匁 村おつる

代貳百八十文

一、八百三拾匁

畑中栄助

代八百七十式文

代六百六十四文

一、卷メ六百四拾匁

同源八

一、六百四拾匁

みそのべ与作

代卷メ三百拾式文

代五百拾式文

一、卷メ七百六拾匁

同左吉

一、四百廿匁

畑中喜四郎

代卷メ四百八文

代三百三十六文

一、式メ三百匁

同伊右衛門

一、五百拾匁

同村新藏

代卷メ六百廿四文

代四百八文

一、式メ百五拾匁

同善十郎

一、五百七拾文

村市助

代卷メ七百廿文

代四百五十六文

一、卷メ六百四十匁

同弥助

一、九百三拾匁

同伝兵衛

代卷メ三百拾式文

代七百四十四文

一、五メ式百五拾匁

同弥三郎

一、式メ八百拾匁

みそのべ源次

代四メ式百文

代式メ式百四拾八文

一、卷メ三百拾文

同金八

一、五百廿匁

同村長吉

代卷メ四十八文

代四百十六文

一、卷メ四百九拾匁

同宇七

内式百文渡

内金卷分渡

一、卷メ九拾匁

村吉助

代卷メ百九十式文

一、貳メ六百五拾匁 村文吉

代貳メ百廿文

水百メ匁
干上り正味七メ百廿匁

一、九メ三百五拾匁 伯父弥惣次

代七メ四百八十文

風代百三匁 二つ
貳百五拾匁

金三分 廿二日渡

内金巻分渡

六月廿二日 七五

一、三メ貳百貳拾匁

一、七メ百五拾匁 手花

代貳メ五百七十六文

代五メ三百六十貳文

六百文 廿三日

一、三百七拾匁 畑中利助

内金巻分渡

代貳百五十九文

一、八メ三百五拾匁 みそのべ丈次

一、七百拾匁 畑中与右衛門

代

代五百三十貳文

一、九メ六百五拾匁 同人

一、壹メ三百三拾匁 同村栄助

メ拾八メ匁

代九百九十七文

代拾四メ四百文

一、七百六拾匁 村半兵衛

内金巻両渡

代五百七十文

メ六拾七メ匁

一、七百匁 村又五郎

代五拾三メ六百文

代五百廿五文

内貳百文渡

一、貳メ七百三拾匁 みそのべ源次

代貳メ四十七文

内金巻分渡

一、四百九拾匁 畑中喜四郎

代三百六十七文

一、五百八拾匁 同村権三郎

代四百三十五文

一、三百九拾匁 同村治郎助

代貳百七十三文

一、三百七拾匁 同村伊八

代貳百五十九文

一、八百貳拾匁 みそのべ長五郎

代六百十五文

一、九百六拾匁 みそのべ与作

代七百廿文

一、貳メ四百三拾匁 村善十郎

代壹メ八百廿貳文

一、九百五拾匁 同平七

代七百拾貳文

一、五百拾匁 同おつる

代三百八十貳文

一、壹メ百匁 同与七

代八百廿五文

一、貳メ五百六拾匁 同伊右衛門

代壹メ九百廿文

一、貳メ九百匁 同与右衛門

代貳メ百七拾五文

一、貳メ貳百四拾匁 同弥助

代壹メ六百八拾文

一、七百六拾匁 村与作

代五百七十文

一、五メ八百匁 同弥三郎

代四メ三百五十文

一、貳メ三拾匁 みそのべ長之助

代壹メ五百廿貳文

一、貳メ六百五拾匁 村庄五郎

代卷メ九百八拾七文

内貳百文渡

一、卷メ貳百八拾匁 同金八

代九百六拾文

一、貳メ四百四拾匁 同文吉

代卷メ八百三拾文

一、七百廿文 畑中新蔵

代五百四十文

一、貳メ三百七拾匁 村源八

代卷メ七百七十七文

内金壹分渡

一、卷メ貳百八拾匁 同吉助

代九百六拾文

一、卷メ六百拾匁 同太七

代卷メ貳百七文

一、壹メ三百匁 同伝兵衛

代九百七十五文

一、四メ匁 同弥吉

代三メ文

一、貳メ六百六拾匁 同左吉

代卷メ九百九十五文

一、卷メ六百拾匁 同市助

代卷メ貳百七文

一、卷メ六百九拾匁 同宇七

代卷メ貳百六拾七文

一、六百貳拾匁 同長吉

代四百六十五文

一、四メ九百拾匁 みそのべ兵蔵

代三メ六百八拾貳文

一、貳拾貳メ八百五拾匁 村弥惣次

代拾七メ百三拾七文

一、内金三分貳朱 廿三日渡

一、貳拾貳メ四百匁 みそのべ丈次

代拾六メ八百文

一、内金壹兩壹分 廿四日渡

メ百拾三メ三拾匁

代八拾四メ七百八文

水百四拾七メ四百匁

干上り正味拾メ貳百六拾匁

風代百八十匁

風代四百六拾匁

六月廿三日

七 六五

一、八メ五拾匁

手花

代五メ六百三十五文

一、七百匁

みそのべ長五郎

代四百九十文

内銀貳朱渡

一、六百貳拾匁

村半兵衛

代四百三拾四文

一、壹メ五拾匁

畑中与右衛門

代七百三十五文

一、壹メ四百七拾匁

同永助

代壹メ貳拾九文

一、貳メ九百四拾匁

みそのべ源治

代貳メ百九十八文

一、六百拾匁

村おつる

代四百廿七文

一、八百九拾匁

みそのべ与作

代六百廿三文

一、六百匁

畑中利助

代四百貳十文

一、六百四拾匁

同村權三郎

代四百四十八文

一、五百四拾匁

同村伊八

代三百七十八文

一、三百七拾匁

同村次郎助

代貳百五十九文

一、壹メ四百七拾匁

村吉助

代壹メ廿九文

一、五百五拾匁 同喜四郎

代三百八十五文

一、貳メ五百三拾匁 みそのべ長之助

代壹メ七百七十一文

一、三メ貳百五十拾匁 村伊右衛門

代貳メ貳百七拾五文

内銀貳朱渡

一、壹メ三百四拾匁 伝兵衛

代九百三拾八文

一、八百四拾匁 畑中新蔵

代五百八十八文

一、貳メ四百四拾匁 村源八

代壹メ七百八文

内三百文渡

一、壹メ三百拾匁 同平七

代九百拾七文

一、貳メ八百七拾匁 村宇七

代貳メ九文

一、貳メ四百三拾匁 同左門

代壹メ七百壹文

内金壹分渡

一、貳メ五百五拾匁 同文吉

代壹メ七百八十五文

一、壹メ六百六拾匁 同市助

代壹メ百六十貳文

一、六メ七百匁 同弥三郎

代四メ六百九十文

一、貳メ四百匁 同善十郎

代壹メ六百八十文

内銀貳朱渡

一、壹メ四百九拾匁 同左吉

代壹メ四十三文

一、四メ五百七拾匁 みそのべ小助

代貳メ九百文

内貳朱渡

一、貳メ三百九拾匁 村小兵衛

代巻メ六百七十三文

一、八百七拾文 米そのべ長吉

代六百九文

一、四メ貳拾文 弥惣次

代貳メ九百四拾文

内金貳分渡 廿四日

メ 六拾四メ三百四拾文

代四拾四メ八百七十九文

水 七拾五メ五百文

干上り 正味七メ六百四拾文

風代四百拾文 二つ

六月廿四日 七五

七八

一、七メ文 手花

代五メ四百六十文

一、四百廿文 畑中与右衛門

代三百十五文

一、八百三拾文 同村栄助

代六百廿貳文

一、五百八拾文 同利助

代四百五十貳文

一、四百四拾文 同権三郎

代三百三十文

一、貳メ百九拾文 米そのべ源次

代巻メ七百八文

一、四百四拾文 畑中伊八

代三百四十三文

一、貳百五拾文 同次郎助

代百八十七文

一、三百八拾文 同喜四郎

代貳百八拾五文

内式朱渡

一、六百六拾文 同新蔵

代五百十四文

内銀式朱渡

一、巻メ六拾匁 村伝兵衛

代九百四文

一、六百八拾匁 みそのべ長五郎

代五百三十文

一、巻メ六百三拾匁 村左吉

代巻メ貳百七拾壹文

一、六百貳拾匁 同半兵衛

代四百八拾三文

一、四百九拾匁 みそのべ与作

代三百八十貳文

一、三百九拾匁 村庄次、おつる

代三百四文

一、巻メ七百三拾匁 みそのべ長之助

代巻メ三百四十九文

一、貳メ四百五拾匁 村伊右衛門

代巻メ九百拾壹文

一、巻メ貳百拾匁 同吉助

代九百四拾三文

一、巻メ百七拾匁 同平七

代九百拾貳文

一、七百匁 みそのべ長助

代五百廿五文

一、巻メ九百五拾匁 村源六

代巻メ五百廿壹文

一、貳メ百匁 同吉助

代巻メ六百三拾八文

一、巻メ六百五拾匁 同弥助

代巻メ貳百八拾七文

一、巻メ五百四拾匁 同源八

代巻メ貳百壹文

一、巻メ八百九拾匁 同文吉

代巻メ四百七拾四文

一、五メ三百匁 同弥三郎

代四メ百三拾四文

一、巻メ貳百匁 同市助

代九百三拾六文

内四百文渡

一、三メ百九拾匁 みそのべ小助

代貳メ四百八拾八文

一、貳メ六百五拾匁 みそのべ兵藏

代貳メ六十七文

内金壹分渡

一、七百拾匁 同村長吉

代五百五十三文

一、三メ七拾匁 村弥吉

代貳メ三百九拾四文

一、五メ三百匁 同弥惣次

代四メ百三十四文

内金貳分渡

一、八メ三百六拾匁 みそのべ丈次

代六メ六匁

内金三分渡

六拾三メ七百三拾匁

代五拾メ百五拾七文

水 九拾三メ三百匁

千正 五メ貳拾匁

風代三百三拾匁

七五

六月廿五日 八

八貳

一、四メ三百五拾匁 手花

代三メ五百六十貳文

一、貳百五拾匁 溝延おちん

代貳百八十八文 夫三平

一、壹メ百三拾匁 同村源次

代九百四文

一、貳百廿匁 村おつる

代百七十六文

一、五百廿匁 畑中榮助

代四百拾六文

一、貳百六拾匁 みそのべ与作

代百九十五文

是は相濟也

一、九百拾匁

同村長之助

代七百廿八文

一、貳百五拾匁

畑中權三郎

代貳百文

一、四百廿匁

同村利助

代三百三十六文

内貳百文渡

一、六百五拾匁

同村与右衛門

代五百廿文

一、六百六拾匁

みそのべ長助

代五百廿八文

一、八百八拾匁

村吉助

代七百四文

一、三百九拾匁

畑中新蔵

代三百四文

一、貳百拾匁

同村喜四郎

代百六拾八文

一、五百拾匁

みそのべ長五郎

代四百八文

一、壹×三百九拾匁

村文吉

代壹×百拾貳文

一、貳×四百匁

同弥吉

代壹×九百六拾八文

一、五百四拾匁

同半兵衛

代四百三十貳文

一、九百四拾匁

同伝兵衛

代七百五十貳文

一、八百拾匁

同平七

代六百四十八文

内貳百文渡

一、三×六百五拾匁

同弥三郎

代貳×九百九十三文

一、壹×五拾匁

村与七

代八百四十文

一、八百八拾匁 同左吉

代七百四文

一、壹メ三百九拾匁 同与三

代壹メ百拾貳文

一、四百五拾匁 みそのべ長吉

代三百六十文

一、壹メ貳百匁 村市助

代九百六十文

一、壹メ三百八拾匁 同宇七

代壹メ百四文

内百五文渡

一、五メ五百廿匁 みそのべ丈次

代四メ四百十六文

内貳分貳朱渡

一、四メ九百匁 村弥惣次

代三メ九百廿文

内金三分 廿七日渡

メ 三拾八メ百拾匁

代三拾メ七百五拾八文

水 六拾メ七百匁

干上正三メ三百匁

風代三百匁

六月廿六日 七八

一、三メ八百匁 手花

代貳メ九百六十文

一、八百八十匁 溝延源次

代六百八十六文

一、八百八拾匁 同村長之助

代六百八十四文

一、三百九拾匁 畑中新蔵

代三百四文

一、貳百貳拾匁 同村喜四郎

代百六十文

内百文 廿八日渡

一、五百廿匁 同利助

代四百五文

一、貳百三拾匁

同權三郎

代百七拾貳文

一、七百匁

同与右衛門

代五百四十六文

一、四百八拾匁

同半兵衛

代三百七拾四文

一、九百九拾匁

みそのべ兵五郎

代七百七十文

一、四百貳拾匁

畑中伊八

代三百廿七文

一、五百貳拾文

みそのべ長五郎

代四百五文

一、壹メ三百匁

村文吉

代壹メ拾四文

一、壹メ四拾匁

同伝兵衛

代八百拾壹文

内金壹分渡

一、貳メ四百六拾匁

舟戸小七

代壹メ九十八文

一、壹メ六百拾十匁

村八兵衛

代壹メ貳百六拾三文

一、八百匁

同与七

代六百廿四文

一、三メ匁

同弥三郎

代二メ三百四十文

一、壹メ五拾匁

同吉助

代八百十九文

一、壹メ四百拾匁

同竹之助

代壹メ百文

一、壹メ六百拾匁

同源八

代壹メ貳百五拾五文

内銀貳朱渡

一、壹メ四百八十匁

同源六

代壹メ百五十四文

一、貳メ六百五十匁

同弥吉

代貳メ六十七文

一、五百三拾匁 米そのべ長吉

代四百十三文

一、貳百廿匁 村おつる

代百六十五文

一、壹メ五百四拾匁 同市助

代壹メ貳百壹文

一、百三拾匁 同半兵衛

代九十七文

ノ 三拾メ九百七拾匁

代貳拾四メ三拾四文

水 四拾四メ匁

干上正 三メ三百匁

風代貳百匁

六月廿七日 七五

一、百六十匁

一、四メ五拾匁 手花

ノ 四メ貳百拾匁

代三メ百五十七文

一、八百六拾匁 米そのべ源次

代六百四拾五文

一、三百九拾匁 同村長五郎

代貳百九十貳文

一、九百匁 同長之助

代六百七十五文

一、三百四拾匁 畑中新蔵

代貳百三十八文

一、壹メ九百拾匁 村伊右衛門

代壹メ四百三拾貳文

一、八百廿匁 畑中与右衛門

代六百拾五文

一、壹メ六百五拾匁 舟戸小七

代壹メ貳百三十七文

内金壹分渡

一、貳百四拾匁 畑中権三郎

代百六十八文

内銀貳朱渡

一、五百八拾匁

同村利助

代四百三十五文

内銀貳朱渡

一、四百貳拾匁

畑中伊八

代三百十五文

内銀貳朱渡

一、卷メ七拾匁

村宇七

代八百貳文

一、卷メ五百三拾匁

同久兵衛

代卷メ百四拾七文

一、八百三拾匁

同平七

代六百廿貳文

一、卷メ五拾匁

村吉助

代八百六拾貳文

一、卷メ四百八十匁

みそのべ兵五郎

代卷メ百拾文

一、七百三拾匁

村半兵衛

代五百四十七文

一、三メ匁

同弥吉

代貳メ貳百五十文

一、三百五拾匁

同弥三郎

代貳メ三百六十貳文

一、五百三拾匁

みそのべ長吉

代三百九十七文

一、卷メ四百拾匁

村源八

代卷メ五拾七文

一、卷メ六百九拾匁

同市助

代卷メ貳百六十七文

一、七メ八百五拾匁

同弥惣次

代五メ八百八拾七文

内金貳分 廿八日渡

メ 三拾六メ七百九拾匁

代廿七メ五百拾九文

水

干上り正三メ四百匁

風代貳百九拾匁

六月廿八日 七三

七八

一、貳メ八百匁 手花

代貳メ八十四文

一、五百匁 みそのべ源次

代三百九十文

内金壹分渡

一、百八拾匁 畑中新蔵

代百三十卷文

内銀貳朱渡

四百文渡

一、貳百五拾匁 同村伊八

代百九十貳文

一、五百四十匁 畑中与右衛門

代四百廿一文

一、四百八十匁 畑中利助

代三百五十文

一、貳メ貳拾匁 村弥三郎

代壹メ五百七十五文

一、八百五拾匁 同伝兵衛

代六百六拾三文

一、七百八拾匁 同与七

代六百八文

一、貳百三拾匁 同おつる

代百七十文

一、八百四拾匁 同字七

代六百五十五文

内銀貳朱渡

一、三百五拾匁 みそのべ長吉

代貳百四十五文

内金壹分渡

一、六百五拾匁 村平七

代五百七文

一、貳メ百七拾匁 同弥吉

代卷メ六百九十式文

内五百文渡

一、百四十匁 三十郎かゝ

代九十八文

一、五百四十匁 村文吉

代四百廿一文

内三百文渡

一、卷メ四百三十匁 同源八

代卷メ百十五文

内五百文渡

一、貳メ三百匁 同与右衛門

代卷メ七百九十四文

一、四メ九百五拾匁 みそのべ丈次

代三メ九百六十文

内金三分渡

一、卷メ四百五拾匁 村市助

代卷メ百三十一文

内三百文渡

一、三メ匁 みそのべ兵藏

代式メ三百四十文

内金式分渡

一、八メ八百六拾匁 村弥惣次

代七メ八十八文

内金三分 廿九日渡

一、拾卷メ百匁 みそのべ常吉

代八メ八百八拾文

内金卷匁渡

一、七メ貳百匁 新田へ

代五メ四百文

三分百五十文渡

相濟也

五拾三メ六百拾匁

代四拾式メ拾式文

水

干正 貳メ八百拾匁

卷メ八百匁

七百三拾匁

合五メ三百四拾匁

風代百四拾匁

百五拾匁

五十匁

六月廿九日 七

七五

一、貳メ拾匁 手花

代卷メ五百七十文

一、三百匁 畑中利助

代貳百十文

一、百四拾匁 同村権三郎

代九十八文

一、五百匁 同村与右衛門

代三百七十五文

一、卷メ六百六拾匁 村弥三郎

代卷メ貳百四拾五文

一、九百五拾匁 同八兵衛

代七百拾貳文

一、卷メ七百拾匁 同嘉助

代卷メ貳百八拾貳文

一、四百六拾匁 村平七

代三百四十五文

一、貳メ貳拾匁 同弥吉

代卷メ五百拾五文

一、卷メ百三拾文 みそのべ兵五郎

代八百四十七文

内金卷分渡

一、卷メ百廿匁 同兵藏

代八百四十文

一、卷メ八百匁 村藤七

代卷メ三百五十文

一、貳百六拾匁 みそのべ長吉

代百八十貳文

一、八百八拾匁 村弥次郎

代六百六十文

内巻メ文渡

一、巻メ百五拾匁 同利八

代八百六十式文

一、巻メ五拾匁 同久兵衛

代七百八拾七文

一、巻メ百八拾匁 同市助

代八百八十五文

一、七メ八百五拾匁 同弥惣次

代五メ八百八十七文

内金式分巻メ文 七月一日渡

メ 式拾六メ百七拾匁

代拾九メ五百八十九文

水 三拾六メ匁

干上正巻メ式百七拾匁

正巻メ四百拾匁

合式メ六百八拾匁

風代百三拾文

七月朔日 七

一、巻メ四百廿匁 手花

代九百九十四文

一、百拾匁 みそのべ兵五郎

代七十一文

一、四百五拾匁 田井村源次

代三百十五文

一、百三拾匁 同長吉

代九十文

一、百廿文 みそのべ長五郎

代八十四文

一、四百四十匁 村与七

代三百八文

一、三百四拾匁 畑中与右衛門

代式百三十八文

一、三百八拾匁 村半兵衛

代貳百六十六文

一、七百六拾匁 北口仁助

代五百三十貳文

一、壹×百九拾匁 村八兵衛

代八百三拾三文

内三百文渡

一、四百文 畑中利助

代貳百八十文

一、壹×匁 長五郎

代七百元

一、三百貳拾匁 村五郎助

代貳百廿四文

内貳百文渡

一、壹×八拾匁 溝延兵藏

代七百五十六文

一、壹×五百拾匁 村嘉助

代壹×五十七文

一、壹×八百匁 同弥吉

代壹×貳百六十文

一、六×五百五拾文 同弥惣次

代四×七百十六文

金壹分 文五郎

同貳分 七月二日渡

一、壹×三百四拾匁 同市助

代九百三十八文

内貳百文渡

× 拾九×三百四拾匁

代拾三×六百六拾貳文

水

干正 壹×九百拾匁

風代貳百四拾匁

七月二日 七三

四百匁

一、四百五拾匁 手花

× 八百五拾匁

代六百弍十文

一、弍百四拾匁

畑中与右衛門

代百十八文

一、弍百匁

同利助

代百四十文

一、五百弍拾匁

みそのべ兵藏

代三百六十四文

一、六百四拾匁

同村仁助

代四百四十八文

内銀弍朱渡

一、九百七十匁

村弥吉

代七百八文

一、三百拾匁

村文吉

代弍百十七文

一、壹メ八十匁

同嘉助

代七百八十八文

内弍朱渡

百文渡

一、八百匁

同市助

代五百八拾四文

一、弍メ三百五拾匁

同弥惣次

代壹メ七百六十弍文

メ 七メ九百八拾匁

代五メ七百九拾九文

一、四メ六百七拾匁

舟戸五助

代三メ五百五十文

金弍分五十文渡

一、三百匁

村吉助

代弍百拾文

メ 拾弍メ九百五拾匁

代九メ五百五十九文

水

干正 壹メ五百四拾匁

風代六十匁

七月三日 七

一、三十匁
みそのべ長吉

代十八文

一、九十匁
畑中与右衛門

代五十四文

一、百三拾匁
みそのべ甚助

代八十四文

一、四百四拾匁
村市助

代三百八文

一、七百五拾匁
同嘉助

代五百廿五文

一、六百五拾匁
同弥吉

代四百五十五文

一、百四拾文
村半兵衛

代九十八文

一、貳メ六拾匁
同弥次郎

代壹メ五百三文

内銀貳朱渡

貳百文渡

四メ貳百九拾匁

代三メ拾五文

干上 五百廿匁

百廿匁四分

風百拾匁

七月四日 七

一、四百匁
手花

代貳百八十文

一、三百廿匁
市助

代貳百廿四文

内金壹分貳朱渡

一、八十匁
利助

代四十八文

一、貳百五拾匁
みそのべ仁助

代百六十式文

一、九拾匁
村弥次郎

代六十三文

代七百七十七文

代七百七十七文

代錢寄

一、貳百六十五文

一、四百壹文

一、貳百八十六拾九文

一、八十七百七拾文

一、拾九百九百六拾三文

一、貳拾七千五百四十八文

一、五拾三六六文

一、八拾四七七八文

一、四拾四八百七十九文

一、五拾百五拾七文

一、三拾千七百五拾八文

一、廿四三拾四文

一、廿七千五百拾九文

一、四拾貳千拾貳文

一、拾九千五百八十四文 廿九日

一、拾三六六拾貳文 朔日

一、九千五百五拾九文 二日

一、三六四十五文 三日

一、七千七十七文 四日

四百六拾四五百拾文

直し金六拾六兩壹分

三百六拾文

一、金拾壹兩貳分 為登入用

一、金六兩 内雜用

八拾三兩三分

内

廿八兩 いせ源と入

四匁貳分 同断

貳十兩 いせ理と入

残而

三拾壹兩壹分

五兩 いせ理と入

五兩

福嶋飛脚ちん

いせ源同断

残而

廿一兩壹分

目方

一、百五拾五匁 十五十六日

一、壹メ六百匁 十七十八

一、貳メ五拾匁 十九

一、三メ五拾匁 廿日

一、七メ百廿匁 廿一日

一、拾メ二百六拾匁 廿二日

一、七メ四百四拾匁 廿三日

一、五メ貳拾匁 廿四日

一、三メ三百匁 廿五日

一、三メ三百匁 廿六日

一、三メ四百匁 廿七日

一、五メ三百四拾匁 廿八日

一、貳メ六百八拾匁 廿九日

一、壹メ九百拾匁 朔日

一、壹メ五百四拾匁 二日

一、五拾八メ三百六拾五匁

一、五百廿匁 三日

一、百廿匁 四日

一、五拾九メ五匁

改

六拾三メ六百廿匁

内三メ六百廿匁 風代

正六拾メ

風代

廿五匁 十五十六

百五十匁 十七十八

二百五十匁 廿日

三百八拾匁 二つ 廿一日

六百四十匁 三つ 廿二日

四百拾匁 二つ 廿三日

三百三拾匁 廿四日

三百匁 廿五日

貳百匁 廿六日

貳百九拾匁 廿七日

三百四拾匁 三つ 廿八日

百三十匁 廿九日

百四十匁 朔日

六十匁 二日

三メ六百四拾五匁

外二

百三拾文 三日

大^ハ 拾八袋入 壹駄

二^ハ 拾八袋 二箇

大^ハ 拾九袋 二箇

内大印 拾二袋

天二大印 壹袋

(裏表紙)
「任意集」

四二 (紅花荷通判に付) 願書

以書付御願奉申上候

御代官三宅鑑作様御支配所羽州村山郡西里村百姓林兵衛代吉次郎義、御願奉申上候儀者、当御領分加美郡高城村並当御領分前澤町・一ノ関町、右三ヶ所ニ而紅花買方仕度段、当御城下大町二丁目川村屋新七手先ニ而買方いたし、右紅花三拾六メ目壹駄割合ヲ以、都合六駄買入候地元^カ夫々御首尾合申受、御通帳為附渡候ニ、七北四通、当月十一日受払御会所へ駄送仕、右紅花此度川村屋新七方^カ買入候ニ付、御他領出し御通判申受候ニ付、三拾六メ目ニ金四両、外ニ壹駄ニ付御仲間所御会所ニ金貳分御役永御上納仕、別而紅花壹駄ニ付正金三拾三兩三分御上

納仕、御頼手札ニ而金三拾三兩三分ツツ御引替下受不仕候而ハ、御通判之御下知無之趣被仰聞承知奉畏候、則右御引替金貳百貳兩貳分御上納仕候間、右御頼御手形御下被成下度段、宿川村屋新七江再忖御願申候得共御下金無之、何共困入存候、何卒格別御慈悲ヲ以右荷物早速駄送仕度旨、御通判御下被成下度、偏奉願上候、以上

慶応元五年

二月十三日 御代官三宅鑑作様

御支配所羽州村山郡

西里村百姓

糸紅屋

林兵衛代

受払

同 同

吉次郎

同 御仲

御会所様

四三 当寅生花帳（横帳）

〔表紙〕

〔慶応貳年〕

当寅生花帳

寅六月十三日

〔表紙裏〕

〔但生花百匁ニ付貳百文見込〕

手作方

寅六月十三日

一、生花四百五拾匁

同十四日

一、同貳メ九百五拾五匁

同十五日

一、同三メ四百五匁

同十六日

一、同三メ七百五拾匁

同十七日

一、同四メ三百五拾匁

寅六月十八日

一、生花三×百五拾匁

同十九日

一、同貳×七百五拾匁

同廿日

一、同三×五拾匁

同廿一日

一、同三×五拾匁

同廿二日

一、同五×貳百匁

同廿三日

一、同三×匁

寅六月廿四日

一、生花壹×七拾匁

同廿五日

一、同壹×百三拾匁

同廿六日

一、同壹×三百三拾五匁

同廿七日

一、同五百四拾五匁

同廿八日

一、同四百匁

同廿九日

一、同百八拾匁

寅七月二日

一、生花百九拾五匁

ノ三拾九×九百六拾五匁

代七拾九×九百三拾匁

寅六月廿日

一、生花壹×三百五匁

同廿一日

一、同貳×七百七拾匁

同あま

一、同壹×六拾匁

同廿二日

一、同三×七拾匁

同廿三日

一、同壹×九百匁

同六月廿四日

一、生花貳百匁

藤吉分

寅六月十五日

一、生花壹×七百拾匁

同十六日

一、同貳メ六百貳拾匁

同十七日

一、同三メ百五拾五匁

同十八日

一、同貳メ七百七拾匁

同十九日

一、同卷メ三百五匁

同廿五日

一、同七百三拾八匁

同廿七日

一、同五百拾五匁

メ 貳拾三メ百拾八匁

代四拾六メ貳百三拾六文

此金七兩三朱卜

貳百三拾六文

源作分

寅六月十八日

一、生花四百三拾五匁

同十九日

一、同五百五拾五匁

同廿日

一、同七百五匁

同廿一日

一、同卷メ貳百八拾五匁

同廿二日

一、同貳メ八百八拾匁

寅六月廿三日

一、生花九百八拾匁

同廿四日

一、同四百四拾匁

同廿五日

一、同四百三拾五匁

同廿六日

一、同五百三拾五匁

同廿八日

一、同三百三拾匁

メ 八メ五百八拾匁

代拾七メ百六拾匁

此金貳兩貳分貳朱卜

三百六拾文

一、生花三拾九メ 手前手作分

九百六拾五匁

一、同 貳拾三メ 藤吉分

百拾八匁

一、同 八メ五百八拾匁 源作分

三〇

メ生花七拾壹メ六百六拾三匁

代百四拾三メ三百貳拾文

此金貳拾貳兩壹分貳朱卜

百貳拾六文

外二

金壹兩貳分 入用見込

二口メ金貳拾三兩三分貳朱卜

百貳拾六文

此干花七メ匁 売払

代金拾八兩貳分

殘金五兩壹分貳朱卜

百貳拾文損毛

(裏表紙)

「羽州村山郡

最上田井村

今田弥兵衛用」

四四 覚(紅花仕入金請取)

覚

一、錢貳拾五貫也

右者干紅花之仕入錢二、髓二請取申候所実正二御座候

子六月十五日

和巾

田井 弥助殿

四五 覚（や印紅花大石田蔵入）

覚

へや印壹駄片馬紅華

但四固附

外二

送金巻両卜貳貫文

手板 貳枚

通御判 貳枚

添状 五通

右之通儲請取蔵入仕候、近日中能舟ニ積入指下し可申候、
以上

六澤屋金十郎 ㊦

子七月廿三日

今田弥兵衛殿

四六 覚（紅花代金請取）

覚

一、金拾両者

但し歩判也

右之通り千紅花代金之内儲ニ受取り申候、為念如此ニ
御座候、以上

羽入村

弥内 ㊦

子ノ八月廿五日

田井村

弥兵衛殿

四七 覚（紅花代金請取）

覚

一、金貳拾五兩三分也

又

右者紅花代金御使伊七殿

慥ニ請取申候、已上

東海林市郎兵衛

㊦

庚子十月五日

今田弥兵衛殿

四八 覚（紅花代金請取）

覚

一、金五兩也

外式分利足分

右之通紅花代殘金慥ニ請取申候、以上

庚子十一月廿九日

野田村

新助

㊦

田井村

弥兵衛殿

四九 覚（紅花晒蠟取立錢請取）

覚

錢貳貫四百文

右者去子紅花晒蠟通荷物、別紙取立上納請取候処如件

丑正月十一日

酒井伊兵衛

㊦

浅野藤太夫

㊦

田井村庄屋

弥内方

五〇 覚（や印紅花大石田蔵入）

覚

へや印三駄片馬紅花

但四固附

外二

送金貳両貳歩四貫文

手板 四枚

通板 四枚

添状 貳通

右之通槌請取蔵入仕候、近日中能舟二積入早束指下し可
申候、以上

（大石田）
六澤屋金十郎 印

丑六月廿三日

田井

五一 金銭指引勘定

金指引

一、金貳両三歩廿三匁六分

子十一月十二日差引表かし

一、同拾兩者

六月朔日大豆五拾表引当かし

一、同壹歩者

右金之内七両ハ六月も八月迄之利足壹両壹歩

惣金拾三両貳拾三匁六分

内

一、金九兩拾貳匁九分

大豆五拾表売仕切表かし

引殘金四兩拾匁七分

外二

一、金四兩貳步拾壹匁貳分貳厘

紅花添金別紙の通

右之通指引殘金御取替御座候、為後日仍如件

丑ノ十一月四日

今田弥兵衛殿

本間幸三郎 ㊦

為念如斯御座候、以上

松橋

宮地次兵衛 ㊦

丑十一月十一日

田井

今田弥内 殿

五二 覚 (紅花仕入代金請取)

覚

一、金拾兩也 但シ文字歩判也

右者当丑夏仕入紅花代金之内、慥ニ請取申候、

五三 覚 (紅花送手板)

覚

八月十七日

○ 〆や二大 四丸紅花

〆 壹駄也

此駄質六匁八分

右之内

御手板残り○

丁百三文受取

代耆刃五分三厘

残り五刃式分七厘

八月十七日

○ へや大 四丸紅花

ノ耆駄也

此駄質六刃八分

右之内 ○

丁百三文受取

代耆刃五分三厘

残り五刃式分七厘

○ へや大 式丸紅花

○ 同大 耆丸紅花

ノ 三丸也

此駄質五刃式分五厘

右之内

御手板残り

三百文受取○

代五分

残り四刃七分五厘

九月四日

○ へや大 五丸紅花

此駄質八刃七分五厘

御手板耆通残りなし

ノ 式拾四刃四厘

川口弥蔵

印

丑十二月

今田弥兵衛様

伊勢屋源助様

五四 覚（へや印紅花大石田蔵入）

覚

へや印四固紅花 十六入

へ出印式固同 十七入
十三入

へ 沓駄片馬

外に

送金沓両式貫百文

手板式枚

添状沓封

通御判式枚

御状沓通

へ 蛸満寺様行

右之通髓ニ請取蔵入仕候、近日中能舟ニ積入積下し可

申候、以上

寅七月九日

六沢屋金十郎 印

今田弥兵衛殿

五五 覚（紅花代金差引勘定）

覚

沓駄ニ付金三拾三兩沓分、永八匁式分三リン上リ

へ 可仕今 紅花式駄 但拾八袋入

代金七拾五兩也

内金式分 荷造七嶋駄ちん

六月廿日

金三拾兩 直渡

六月廿三日

銭式拾貫文 使弥八渡

同廿五日

金三拾兩 使弥次郎殿渡

七月六日

金拾兩 御同人渡

金七拾兩貳分貳拾貫文

此金三兩壹分

金直し七拾三兩三分

残金壹兩壹分

寅七月卯七月迄

一、金四拾兩ハ

金五拾兩無尽送り金

金四拾壹兩壹分

内

寅十一月八替目

一、金壹兩貳分

右無尽御出金

壹メ三百拾八文

一、金壹兩貳分

右同断

壹メ三百拾八文

金三兩壹分

壹メ七拾壹文

此内八百三拾六文 座料代引

残金三兩壹分 式丁分御出金

貳百三拾五文

又金貳分三百文 米貳表代

壹メ文 米拾貳表江さし米代

小以金三兩三分 引

壹メ五百三拾五文

差引残金三拾七兩壹分

錢拾五文

内金貳拾四兩、廿八日渡ス

残テ金拾三兩壹分十五文、今日渡ス

右之通相渡、此表出入無御座候、尤送り金四拾兩ハ、来

卯七月四拾貳兩ニ而御済可被下候、利足之儀者当寅十一

月金貳兩、卯三月金貳兩御済可被下候、以上

柴田弥之助 ㊦

寅七月晦日

今田弥兵衛殿

同 弥次郎殿

五六 覚（へや印紅花大石田蔵入）

覚

へや印六箇紅花

十七入三

外二 十八入三

送金巻兩下弍貫文

手板 弍枚

添状 弍封

通御判弍枚

又

右之通髓ニ請取蔵入仕候、早刻積下し可申候、以上

(大石田)
六沢屋金十郎 印

寅八月五日

今田弥兵衛殿

五七 覚（干花代金請取）

覚

一、金子五兩八干花代金内

右之通髓請取申所実正ニ御座候、為其仍而如件

卯ノ七月廿六日

吉田村

源助

田井村

今田弥兵衛様

五八 覚（紅花代金受取）

覚

一、金拾両者

右者久ノ本六兵衛分紅花代金之内、書面之通髓受取申

候、已上

卯八月廿五日

田井村

弥兵衛殿

大町村取持人

六右衛門 ㊦

六〇 覚 (干花代金請取)

覚

一、金貳拾兩 干花代

右之通り儘ニ請取実正ニ御座候、以上

野田

庄八 ㊦

五九 覚 (紅花手打金受取)

覚

一、金五兩也

右ハ久ノ本紅花手打金書面之通、儘受取申候、以上

卯八月廿五日

田井村

弥兵衛殿

大町村取持人

六右衛門 ㊦

六一 覚 (や印紅花大石田蔵入)

覚

や印式駄式丸紅花

外二

一、手板 貳枚

一、通判 貳枚

一、添状 貳封

一、送金考兩貳步下貳貫文

右之通髓請取蔵入仕候、近日中能船二積合積下し可申候、
以上

(大石田)
六沢屋金十郎

巳六月廿八日

田井

今田弥兵衛殿

六二 覚 (紅花袋入請取)

覚

一、紅花四拾袋半

右者間之助出紅花袋入髓請取申候、草々

巳

七月廿一日

明石八之助

㊦

田井村

善三郎殿

六三 覚 (紅花荷繼立)

覚

一、(や)紅花五箇

添錢五百文

右之通御請取繼立可申候、以上

未七月一日

六田

問屋 ㊦

田井

弥兵衛殿

六四 覚 (紅花荷物大石田蔵入)

覚

一、紅花五丸

但し拾六入

此添金壹両貳朱也

外ニ永拾壹匁三分壹厘

御役永預リ

右之通髓ニ濟差申候、以上

大石田

未七月二日

加藤甚内 ㊦

田井村

今田弥兵衛殿

六五 覚 (紅花代金差引)

覚

一、百九兩ト

拾八匁貳分五リソ

一、四拾三兩貳分

五匁六分

一、七拾九兩貳分

七匁五分

ノ貳百三拾貳兩ト

三拾壹匁三分五リソ

内

へや 二貳駄三袋

ちり 八袋

へや 一片馬三拾袋

二大 駄片馬八ツ

一、金三兩貳分ト

売口セシ

百八拾兩壹分ト八匁六分

四匁四分

内

一、三拾三兩

大津たちん

百兩ハ

ひ脚ニ渡ス

一、貳拾六兩

百兩ノ外也

拾兩ハ

五八殿渡ス

九分

たちん

残ニテ

一、三拾三兩

貳百拾貳兩ノ切ちん

七拾兩壹分ト八匁六分也

九分貳リシ

百兩に十六かへ

右通御渡シ申上候、若勘定違御坐候ハ、重而仕直シ

一、四拾四兩壹分

高福寺様御渡シ

可申上候、為念如件

十貳匁七分

申ノ十一月廿日

真木与作

㊦

一、貳拾九匁七分

三拾兩三兩ノ利足

今田弥内殿

百兩壹月壹兩貳分壹ケ月分

同 源蔵殿

並也

一、金貳兩也

与平治へ取替

一、三分二リシ

右切ちん

一、壹兩八分

十月九かり

六六

へや印紅花代金差引覚

残四拾九兩三分ト

百四拾貳匁七分四リシ

へや二印差引覚

指曳ニテ

十一月廿七日売付

十七入

一、金百四兩式步

〆大印六丸

十六入

一、金式兩

右金十一

銀拾壹匁式分

同印式丸

〆式駄六袋

一、同 壹匁式分

〆大印四丸

金五拾兩也

十七入

〆大印壹丸

一、金貳拾貳兩三歩

〆大印貳丸

銀三匁七分

〆片馬式

金四拾貳兩也

一、同 七匁三分

右印五丸

金百貳拾六兩三分

銀拾四匁九分

右之内

一、八匁式分五厘

右印五丸

九月廿六日

一、歩判金百兩

嶋飛脚ニ而差下ス

一、三匁九分八厘

〆大印四丸

一、同 三拾三匁

右歩判打

〆大印壹丸

一、同 貳拾四匁

右金下ケたちん

中村佐右衛門殿拂

〆

〆

〆

一、八匁式分五厘

右印五箇

大津方たちん

川口弥蔵殿拂

ノ

金百貳兩

銀八拾五匁九分八厘

此金壹兩壹分ト拾匁九分八厘

ノ金百三兩三步

銀拾匁九分八厘

残而

金貳拾三兩貳步

銀三匁九分貳厘

内残

一、六匁四分五厘

五匁六分四厘

ノ拾貳匁九厘引

残而

金貳拾三兩壹步ト

銀六匁四分三厘

右通代金子福嶋飛脚を以差下し、此表無出入相濟申候、

若し算用違等御座候ハハ、御遣可被下候、重而御差引

可申上候、以上

近江屋九郎兵衛^印

申ノ十一月廿七日

今田弥兵衛様

六七 生花代金指引覚

指引覚

一、九拾メ九百拾八文 生花代

外二六匁文銭買不足

壹メ六百五十文 ちり三百匁代

五貫七百八十匁文 口銭

小以九拾八貫九百四拾九文

内

金拾五兩壹分 生花仕入之節受取

此錢九拾壹メ五百文

一、錢貳メ文 役錢之節受取

一、金壹分 盆夫ニ受取

一、米壹俵三升 糶貳表ニ而受取

此代壹メ六百七十九文

一、八十五文 代かり

ノ金拾五兩貳分

三貫七百六十四文

指引残テ

貳貫百八十五文

右之通りニ可有之候已上

酉ノ八月十五日 源内

弥助殿

(別紙)

一金受取覚

一、三兩六月十三日十四日貳度

一、貳兩十五日 壹兩天童方受取

一、貳兩十六日 貳兩十九日

一、貳兩貳分十八日 貳兩廿日

三分廿一日

六八 書簡(紅花作況等に付)

尚々此方酒田へ便口口乍御世話此一通御地方御

届可被下候、大荷着之事而已申遣候、乍去御達

し可被下候ハ、物有之時節御地方御便時々可

有之候、遠察仕候

天童へ向一筆啓上仕候、秋冷相催候、其御地御家内御

揃弥御勇健可被遊御入珍重奉存候、此方無異罷有候、

乍憚御安意可被下候、

一、七月十五日出候貴札当日鳴屋便相届キ忝拜見仕候、

又六月廿五日出二酒田表方貴札漸一昨廿七日相届キ御

細書忝拝見仕候、

一、從此方右熊飛脚状後七月六日同廿日両通差下申候、

相届キ御披覽可被下奉存候、

一、酒田大沼仲兵衛殿を当月九日出し御添状ニ而、此度

庄へや大印鶴渡川原花片馬貴所様分御送り為御登被下

候処、船中無難上着仕候、先以無御為替御出荷被成下

候段、外実共忝仕合奉存候、随而売口銭吟味売付候上

ハ、代金仕切其御地へ直々差下し候様被仰下候、尚又

貴所様を之御差函追付可被仰下と奉待存候、御荷物無

事着御出荷之御礼旁如斯御坐候

一、惣七殿不埒何共気毒、可申上様も無御坐候、寄々尋

申見候得共、相知連不申候、惣七殿へ先達而相渡候仕

切金、並ニ小差引目錄等之義、委細両度差下し申候条、

一々御引合御覽可被下奉存候、六月廿日出早状態々申

上候処、七月十五日相届キ御驚キ御難渋被遊候段、御

尤至極ニ奉存候、常々御風体少しも心置キニ見得不申、

御方私方も甚驚入候事ニ候、御実体之御方我人も以之

外と今に申暮申候、去年紅花売御損失多キ中へ、不存

寄惣七殿御不埒旁気毒千万難尽筆紙可申上様無之候、

嘸私事氣の不付段不届ニ思召可被成と遠察痛入気毒奉

存候、今更御断之申上様無御座候

一、先月御状春中下し会之義、成程其義御催促申御下し

候様ニと申候得共、先達而得貴意候通、買返し之紅花

買付代金入用と被御書付を御覽被成候通、追々惣七殿

へ相渡し、成程近九殿ニ而紅花御買被成候噂及承候事

故、其事と斗存居申候、何と申而も、全体御たまし被

成候ニハ不及力、何分此上御了簡私方御聞届可被下候、

御頼申上候、先便段々申上候条取込罷有候得者、不能

返筆候

一、当年其御地早続ニ而、新花不出来不作之由、先達而

相聞得、当地も古花引立、盆前商ひ事御座候、夫故か

此間至新古共一向取引無御座、扱新花大不出来成事、

御地能ク申唱候故、此度上り来り左程ニ無之やと紅屋

衆少し安堵気味ニ御座候、其内仙台花多見事成花、昨

今上り申候、何様来月至紅屋染細工段々始り被申候、

追々商い事可有之候、荷不足之義ハ、大方登り揃ひ不

申候而ハ、皆人髓存知申間敷候、暫ク売出し候間取可
申哉も奉存候、此末紅屋方買口けいきニ応じ、商ひ事
可有之候、相替義も御座候ハハ期重便之時候、恐惶謹
言

亥

伊勢屋

理右衛門 ㊦

八月廿九日

今田弥兵衛様

参人御中

六九 書簡（紅花買入代金前払に付）

市庄治郎殿下り便ニ付、一筆啓上仕候、暑之砌其地御
家内愈御勇健可被遊御入珍重奉存候、此方無異罷有候、
乍憚御安意可被下候

一、先月十六日以書中申上候相届キ御披覽可被下と奉存

候

一、去冬跡御買入花夏中早々御通り御登し可被下と奉存
候心得奉存処、今に何之御左右も無之候、其御地など
御拂被為成候や、一向御状等不被下如何御戻敷奉存候、
御代宗七殿疾ニ御下り可被成之処、其御地も御荷も御
遣し可被成御まち天童浦城を江戸廻し荷も有之候、旁
御見合被成御坐候、御印紅花代仕切状も先々御渡し申
仕廻申候、当月中ニハ御出立も可被成候、嘸御まち兼
被成御坐候半与奉存候、何卒御手廻しはやく御出立被
成候様ニと奉存候、御状も御出し被成候、委敷可申参
と奉存候

一、新花前金御取かへ申様ニと宗七殿被仰候儀も、金子
殊外不廻り御坐候ニ付、此節後下し不申御断申上候、
御心当テ被成下間敷候

一、今年も其御地何エトやらん下直ニ有之間敷様ニ奉存
候、先便ニ申上候通、能々御覽慮之上、出来相応利口
御坐候ハ、御買調御尤奉存候、尤若し高直ニ候ハ、
御見合セ可被遊候

尚委細之義、宗七様も可被參候、大略仕候、尚期重便
之時候、恐惶謹言

六月十一日

今田弥兵衛様

參人御中

伊勢や

理右衛門^印

健可被遊御入珍重奉存候、此方無事罷有乍憚御安意可
被下候

一、七月四日出舟便貴札相届き忝拜見仕候、隨而

へや^天点印紅花吉駄

式袋

但し十六入二丸

十七入二丸

七〇 書簡(紅花荷物と手板表の相違に付)

(端裏書)
「戌八月伊勢屋理右衛門殿方書状」

尚々乍末筆源藏様へ宣數御一統可被下願上候、

一、其御地田畑定而^(虫喰)□□□可有之奉存候、大

坂相場之事承右別紙ニ申候ハハ御覽可被下

候、取込早々已上

一筆啓上仕候、秋冷相催し其御地御家内御揃、愈以御勇

右之通御手板表之通、舟中無難上着大慶仕候、先以不
相替御出荷外聞旁忝仕合奉存候、

一、右御荷物御添状表ニハ右ノ印式駄式袋と御認メ有之

候、如何哉と奉存候へ共、御手板表吉駄式袋と有之候、

其子ニ御座候、定而跡為御登御積哉と遠察仕候、為念

此義申上候

一、右新花御支配人様も何運か御遣し被成候や相知不申

由、追而可被仰下と奉待存候、尚隋分々致吟味相応

宣數直組有之候ハ、売捌キ候様ニ出情可仕候、追而

御吉左右可申上候、尤走り花被取上、仙台も先達而

相走り有之候へ共、御国元到着而高直成物御坐候故、中々引合兼、以今商ひ事始り不申、何共直打申上様も無之候、此様子ニ候得ハ、今暫ク間取可申相見へ申候、成程出来者宣數候へ共、去年之紅花格段高直ノ義ニ而紅花衆聞きおぢ致し取引一向出来不申候、来月へ至不申而ハ駈ニ商ひ有之間敷奉存候

一、其御地段々御買入右御状御遣候迄、是五駄片馬計御造立被成候由、追々御送り御登し可被下と奉存候、一体者水花御仕入も拾駄余御出来被為成候由、御買口宣敷直段引下ケ能キ御買物御座候得かしと奉願候

一、右新紅花御買入ニ付、金子蠟の仕入方ニも御入用ニ御坐候間、此節百両も早々下し候様ニ被仰下候共、此方も為替等追々申上、新只今くり合出来兼申候、尚又此未廻り合出来次第下し候様ニも可仕候

一、先月十六日出し歩判金五拾両大石田へ下候金、次手有之故指下し申候、先此相届キ御請取可被下と奉存候、都合百五十金ニ御取替相成り申候、御帳合被成置可被下候、其外無相替義先々右荷物無事着仕候段、得貴意

申上度、早々如此ニ御座候、猶期後音之時候、恐惶謹言

伊勢屋

理右衛門 ㊦

吉兵衛

戌八月十六日

今田弥兵衛様

同 弥内様

参人御中

七一 覚（へや印御取替の目録）

（端裏書）

「へや印御取替ノ目録」

覚

戌五月十六日

一、歩判金百兩 福嶋飛脚へ差下シ御取替

一、七兩貳歩 五月十六日より極月廿日まで

〆七ヶ月半一分之日相

一、拾六匁 切賃

一、金貳歩と四匁六分五厘 下シ駄賃割合かし

同七月十七日

一、歩判金五拾兩 大黒屋飛脚へ差下シ取替

一、貳兩三歩 七月十七日と極月廿日迄

〆五ヶ月半ノ日相

一、六匁 切賃

一、金壹歩ト まし三百文代

四匁六分五厘 下シ太賃

同十月六日

一、歩判金百兩 大黒屋飛脚へさし下シ取替

一、三兩 十月と極月迄

〆三ヶ月日相

一、拾五匁 切賃

一、金貳歩五匁三分 百貳兩

但し宗七殿と貳兩御たし被成候合、

右下シ太賃かし

十月廿九日

一、八匁五分

へや大五丸

手板不そく

石田へ払

霜月十二日

一、三匁

山中へ

九拾貳文払

極月廿九日

一、四拾壹匁

へや印口々

四分五厘

大津駄賃

川口へ払

〆貳百六拾四兩貳歩

百四匁五分五厘

Ⓜ

右之通御取替御座候、別紙紅花代惣仕切目録ニ而右〆高請取申候事

伊勢屋

亥二月

理右衛門

可申候、以上

今田弥兵衛様

(大石田)
六沢屋金十郎 ㊦

亥六月十七日
(二十七)

今田弥兵衛殿

七二 覚 (や印紅花大石田蔵入)

覚

へや印五駄壺固 紅花

但四面附

銘々小印二而

外二

手板 六枚

添状 三通

通り之判

酒田行之状

送金〆三両六貫文

右之通槌請取申候、近日中能舟ニ積入早々酒田へ指下し

七三 覚 (中野惣七様へ御取替目録)

(端裏書)

「中野惣七様へ御取替目録」

覚

去酉十月三日付落

一、七匁五分七りん

錢五百文かし

同廿七日

一、五匁

古手代ましかし

一、壹匁七分六りん

歩判三拾五兩

太賃七百廿六文

百五拾文天童へまし

此所十式匁受取置指引不そ
くかし

極月廿日
一、壹匁貳分七りん

二大ゴク印壹駄

手板不そく葛谷殿分白銀屋へ

渡ス

ズ

戌八月廿日
一、四匁六分五りん

錢三百文かし⑩

九月六日
一、四拾四匁八分五りん

秤三挺代

専徳殿へ払

同八日
一、拾貳匁

七百七拾八文

芝居割かし

一、歩判
一、歩両貳歩

御参宮ノ節かし

九月廿日
入壹両三歩

預り有

九月廿四日

一、歩判拾両

かし

一、壹歩ト三匁壹分五りん

右三ヶ月

ズノ日相

一、壹匁五分

切賃

霜月三日

一、歩判壹両

かし

同九日

一、歩判五両

かし

一、貳匁

勢州状賃

五度かし

同廿七日

一、金拾両

大坂へ御下りノ節かし

極月四日

一、三匁壹分

錢貳百文かし

同廿六日

一、金拾両

兩度ニ相渡シかし

同廿九日

一、金壹歩

丈助へ遣し候節かし

同
一、金三歩

かし

一、壹匁三分

霜月六日天童へ御下シ状ち

㊦

んかし

一、壹匁三分

浦城喜兵衛殿
御下シ状ちん

御下シ状ちん

ノ

亥正月十二日

一、歩判五匁

かし

一、七分五りん

切ちん

同十四日

一、小判貳匁

大坂へ唐弓壺代下シかし

同十七日

一、歩判壹匁貳歩

かし

同

一、八分七りん

大坂駄賃私

五十五文代かし

二月十七日

一、金貳拾匁

花代ノ内ヲかし

同廿四日

一、金貳拾匁

渡シ

同廿七日
一、歩判壹匁

かし

三月朔日

一、九匁五分

柳合利代六百廿文かし

四月十五日

一、歩判壹匁

かし

廿九日

一、同 壹匁

かし

五月十七日

一、同 三匁

かし

廿三日

一、金貳歩ト

かし

七匁六分 五百文代

惣合

金九拾貳匁ト

百八匁壹分七りん

此金壹匁貳歩拾貳匁八分 ㊦

指引金ニテ

ノ九拾三匁貳歩

惣七殿分渡シ高

拾貳匁八分 此表紅花代別紙惣仕切目録表へ

付出シ候て受取申候

添状 三通

右之通御取替ニて則書付惣七殿へ相渡シ、此方帳面ニ

通り御判

夫々請取印形有之候事

送金式両式歩七貫文

伊勢屋

〆

亥ノ六月

理右衛門

今田弥兵衛様

右之通り隨請取蔵入仕候、近日中能舟積合早々酒田指下
し可申候、以上

惣七殿へ取替遣し候品々也

六沢屋金十郎

亥七月八日

今田弥兵衛殿

七四 覚（へや印紅花大石田蔵入）

覚

へや印四騎片馬

但駄ニ四固附

内欠印有り

外ニ

手板 六枚

七五 覚（大石田より為登荷）

覚

へや印壹丸 近江表

〆

右之通当所弥十郎達ニ為登積申候間、濡様御改御請取可

被成候、尤運賃相渡し申候、以上

(大石田)
六沢屋金十郎 ㊦

亥七月拾日

田井

今田弥兵衛殿

送金三步巻メ五百文

右之通り儘請取蔵入仕候、近日中能舟積合早々酒田へ指
送り可申候、以上

(大石田)
六沢屋金十郎 ㊦

亥八月四日

今田弥兵衛殿

七六 覚 (へや印紅花大石田蔵入)

覚

へや印五箇紅花

外二

手板 式枚

添状 式通

内老通酒田行

通り御判

七七 書簡 (惣七紅花代金滞の書付相渡に付)

(包紙)

一 田井村庄屋

弥兵衛方

上山役所

先達而其方相願候長瀬御料荷口村惣七江相掛候紅花代金
滞之儀、長瀬ニ而吟味有之候処、此間申来候趣、則写遣
候通之文書二候、仍長瀬方戻候書付式通相渡候、此上者

其方了簡次第之事二候間、得与理害相考、存寄役所江可
申達候、已上

亥十一月十日

浅野藤太夫

田井村庄屋

弥兵衛方

紅花六駄片馬六袋 若山屋喜右衛門指引表

内杓駄四袋庄内酒田大沼仲兵衛仕入紅花、則差付

送遣ス

三駄拾八袋当亥春差附送り遣ス

此代金貳百九拾貳兩三分銀貳拾八匁九分

右之内六拾貳兩貳分五匁八分八、差附紅花代殘金御

座候間、惣七請取申間敷候処、請取之口ニ付、則喜

右衛門方江不得其意趣申遣候

金七兩壹分拾壹匁七分 右同人方惣七請取

是ハ去戌九月紅花仕入代金不足惣七江相渡候分

合金六百五拾兩三分銀九拾四匁九分

内

去戌五月十六日出

金百兩

伊勢屋理右衛門方紅花前金借用

同七月十七日出

同五拾兩

右同人方借用

同十月六日出

同百兩

右同人方下し金

同拾三兩壹分

右同人江日相金仕切表ニ而済

七八 紅花代金差引勘定寛

紅花代金之寛

五百匁入

一、紅花拾五駄 拾六袋

此払取

紅花八駄片馬拾袋 京都伊勢屋理右衛門仕切写表

内三駄拾九表紅花前金請取候渡し、差附二送遣し

候

此代金三百五拾兩三分銀五拾四匁三分

同壹兩壹分五拾壹匁六分 右同人江步判切賃金子駄ち

長瀬

ん仕切表にて済

御役所

銀五拾貳匁九分五厘 右同人江駄賃不足銀仕切表二而

済

金四拾五兩 右同人喜右衛門濟方相渡ス

金貳百貳拾九兩三分銀五拾匁九分

七九一 書簡(年賀)

喜右衛門方差引表二而請取

金壹兩

谷地甚兵衛・惣七方借用仕候由

相断置申候

尚々^(ママ)乍外恩御袋様初御内上様江宣敷御心へ被下度奉頼
上候、以上

(貼紙)

一金五兩貳分貳朱

紅花七駄片馬、壹駄二付売口錢

三分宛引之

小以五百四拾八兩壹分

銀九匁八分貳厘五毛

陽春之御吉慶不可有尽期目出度申納候、先以弥御勇健御
越年可被成与珍重之御義奉存候、当方無異儀加年仕候、
右年始之御祝義為可申上如斯ニ御座候、猶期永日時候、
恐惶謹言

殘金百四兩銀六匁三分貳厘五毛 不足分

柴田弥右衛門
同 弥之助 ㊦

右之通紅花代金差引勘定仕候処相違無御座候、以上

松平山城守領分

亥九月

田井村弥兵衛

正月七日
今田弥兵衛様
同 弥内様人々御中

七九一二 書簡（紅花三駄通判願）

……………（前半欠）……………

指為登申度奉存候間、右紅花三駄之通判申受度、此者遣
シ申候間、御承知被下、此者ニ通判御渡シ被遣可被下候、
尤御役料此者ニ御書附被遣可被下候、早速御上納可仕候
一、紅花 三駄 但シ四固附

荷主谷地大町

弥右衛門

右之通ニ御座候間、山形表茂宣敷相通申候様ニ御書附被
遊被遣可被下候、貴面之節御礼方々可申上候、以上

柴田弥右衛門印

正月七日

今田弥兵衛様

同 弥内様

参人々御中

八〇 書簡（年賀、紅花景況）

追啓上仕候、旧冬其御地御商事御懸方等思召儘御取可被
遊、尚々以目出度奉存候、下御方相応例之格取集仕候、
乍憚御安意可被下候

一、御代中野惣七殿御義、随分御堅身御逗留被成、御重
歳候半、御安堵可被下、乍憚御同悦奉存候、此段右御
宿元へ早々御達し可被下候

一、其御地も去冬中何ニ迎御文通ハ出し不被下候哉、余
りの事ニ不審申居候、去秋御出状被成候儘、其後一向
一通も参り不申候、若し道中ニ而相滞候や、御出し被
成便ノ品ヲ御聞せ可被下候、承合可申と奉存候故、如
此申上候

一、御印紅花之義、及御聞も可被下、以之外不位御座候
故、折々惣七殿へ及御相談見候得共、御見合セ御覽可
被成よし、御損多出候物故へ御尤ニも奉存候、其内外々
へ御出し御覽、惣七殿も殊の外御心遣ひ被為成候御事

二御座候、去秋中段々御出荷御商ひ事申上候分

覚

一、三木紅印巻駄七袋 現金 四十一兩かへ

御座候、尤去冬之分御相談ノ上御商ひ事申上候分

覚

霜月廿五日
へや大印五丸 三拾八兩かへ

極月十五日

同紅印巻駄 四十一兩かへ

同八日

同大廿三袋 三拾五兩かへ

旧冬押詰

同大拾丸 四拾五兩かへ

同日

同大四丸 四拾兩かへ

又

右之通売付申候、随分相働キ出情仕候得共、及御聞可被

下、全体当地不位ニ御座候故、其御地御元着へ不引合御

損金多被為出候段、気毒千万ニ奉存候、惣七殿ニも右之

口々付花御取出し談々御見セ、其内直上候御聞合被成下候、外々私方直段宣敷こなして御売不被成候、至極厳敷御吟味御座候、勿論御損多出候物二候へハ、方々へ御見セ被成候事も御尤と奉存候、此方至極相働キ候得共御失意被為出候故、其働キ目も見得不申残念、時節悪敷と申物者致候様無之物ニ御座候、紅屋中ニ古花持多、花屋内思之外古花有之、去霜月迄新花之商ひ者薄ク、古花見切売候故、其方先キへ売捌ケ申候、段々売透き候て、極月へ入中旬頃少し新花望人出、一旦少し直段も直り申候、併紅屋方買進ミ不申、花屋内素人方ニ少し思ひ入レ、買有之候て商ひ事御座候、下地直段も式三兩余引立商ひ事有之候、御印余り御損毛候得者、春々へも御見合御覽可被成よし、其外ハ御見合被成候、時々之様子其御地之及御聞可被下候得共、右売レ口御覽被成候而者別而御掃リ可被遊と遠察仕候、尚又委細之義宗七殿方可申参候得共、右之段々得貴意申上度、如此御座候

一、其御地跡買被成置候よし、定而春中御登し可被遊と推察仕候、三月中至候ハ、相応買人出可申候、春為

登御尤ニ奉存候、差而目当テも無之候得共、余り紅屋
中買不申候、此末紅屋手元透キ候ハ、自然と買人可有
之様ニ奉存候、尚又相替事候ハ、重便可申上候、先ハ
右之段々得貴意申上度如此御座候、尚永春之節万端可
申上候、数通相認殊外取込儻筆御免ニ可被下候、早々
以上

伊勢屋

理右衛門

理兵衛

④ (京都伊理)

正月九日

吉兵衛

佐助

今田弥兵衛様

参人々御中

八一 書簡 (紅花勘定仕切違)

正月六日出之御状、昨廿八日当着髓拜見仕候、如貴命御
家内様御揃余寒ニ無御障御勇健ニ被成御座奉珍重候、当
方無為ニ罷在候間、乍憚御安慮ニ被下候、且又此度去秋
中追々為差登候紅花荷物御任申上置候処、御誠情之御働
を以夫々之仕切状並差引書表へ、殘金三拾三兩三分、丁
錢四百四拾八文髓落手仕候、尤時之相場と乍申初秋より
余程引下ケ候様ニ奉存候、殊ニ古花之義、去夏此方ニ而
茂直附等有之候、全駄ニ金拾兩之御勘定違哉と奉存候、
依之仕切状差戻し申候、相違無之義ニ御座候ハ、無廻義
と奉存候得共、余之下直ニ御座候故、若御算用違ニ而茂
可有之哉と奉存候間、如此得御意候、御尋申上候も氣之
毒ニ候得共、勘定合之義者御榮之義御座候間、幸福嶋便
乍御報如之得御意候、恐惶謹言

今田弥兵衛

正月廿九日

伊勢屋源助様

善七殿

御座候間、左様ニ思召可被下候、尚重便之期時候、恐
惶謹言

いせや

三月六日

理右衛門

判

同 見セ

八二一一 書簡（紅花相場等）

今田弥兵衛様

参

一筆致啓上候、先以当春者年頭之御状御登被下、恭落手
致候、弥其御地御勇健ニ可被遊御座、珍重ニ奉存候、当
方無異儀罷在候、乍憚御安慮可被下候、然者惣七様ニも

御堅勝ニ御座被成候間、御同事ニ思召可被下候

八二一二 書簡（紅花買入に付）

一、御印春荷物定而御積出可被遊与奉存候、追付着次第

御右左可仕候

追啓、右鷺渡川原新花荷口方取出し付花見候処、当年甚

一、此度金子差下シ申度候処、外々ニ下シ金子も無御座、

不出来御座候、酒田大沼殿状面見候処、不出来ニ而、最

少金ニ而も駄賃同し用ニ相遣候故、先此度ハ指扣申候、

上花方不釣合候故御扣へ被成、漸々片馬ノよし、無数御

跡方見合組合セ有次第ニ早々下し可申候間、左様御心

買入御花ニ奉存候、去年之今年ニ候得ハ、中々花の佳程

へ可被下候、親方方書状被遊度候得共、折節持病さし

下直ニも御買入兼、左候ハ、御扣へ被成候段御尤ニ御座

掛り見世（店）より乍憚代筆仕候、紅花相場之儀相替義も無

候、則返書ニも其義申遣候、内々左様思召可被下候、尚

追而御地方之御指図可被下と奉待存候、今日数通相認メ
取込早々申上候、以上

伊勢屋

八月廿九日

理右衛門

今田弥兵衛様

貴下

八二一三 書簡(紅花売買に付)

別紙を以申上候、愈御勇健被遊御入珍重奉存候、御代宗
七殿随分御堅身ニ御逗留被成候間、御安堵可被下候

一、御印紅花御売り有之候故、未夕御見合被成候、貴家

様跡買之紅花、春登し可被成候、此登り口も御待被成

居候、弥御送出し被遊候や、御便御床敷奉存候、外ニ

天童浦城殿江戸廻し紅花茂式取太余り有之候、其花御支

配被成候、今暫御見合、其上追而御下り可被成候、兎

角其御地方御左右奉待候、……………(以下切レカ)……………

八三一 書簡(紅花不景氣に付)

尚々申上候、大谷印只今直付仕り候所、三拾八両ニ
直付御座候而、此直段ニ而何共氣毒ニ奉存候

以飛脚一筆啓上仕候、然ハ寒氣罷成候へ共、弥々貴御地
皆々様御堅勝ニ可被遊御座候、珍重奉存候、下拙無事罷
有申候

一、紅花殊外不景氣罷成、何共氣毒ニ奉存候、然所ニ当

月下金義、不景氣故一切借り金不仕候間下シ兼、何共

申訳無之候間、下直ニ而も少々茂相払申候ハ、来月

五七拾両も指下シ可申奉存候、然所ニ天童いせ屋トハ

拙者売兼候所ニ、勢州たんなる人々を遣候而、三拾五

六両ハ四拾両迄、不残相払申候、外ニ少荷物ハ右之相

場ニ御座候間、見合候間左様思可被下候、何共只今之

様子ニハ、引上候様ニハ相見不申候而、気毒ニ奉存候、何分替之もの共持兼、老駄式駄つ、下向の何のと申候而、売付候間、一向紅屋方ニ而下直の直打故、買込人無之候間、段々不景氣罷成候而、御そんふかく候ハ、何共気毒ニ奉存候、当年中買入申候ハ、少々も売付候も相願連不申候、何分買仕候而も五七駄も春中迄見合可申奉存候間、左様思召可被下候、早々恐惶謹言

中野惣七

十一月十六日

今田弥兵衛様

八三十一 書簡(紅花代金送金に付)

尚々去冬中之商申訳も無御座候へ共、当年之ふかゆきの様子、少々成共心付候ハ、何様存兼下リハ仕間敷候ハ、何共気毒ニ奉存候

市庄二郎様下り便ニ而一筆啓上仕候、段々暑氣能成候処、弥々其御地皆々様御揃ひ御堅勝ニ可被遊御座候、珍重ニ奉存候、下拙無事罷有候、乍憚御康氣可被下候、然ハ当地紅花只今相場少々引上候処、様々日会勘定存してあげ不申候、然所ニ拙者買返シ荷物、只今ニ利分無之候ハ、見合候故、今ニ下りも相知不申候、左様思召可被下候、次ニ伊勢屋利右衛門殿江、無々頼入金子可申候へ共、当年ハ不商ニ候ハ、何共下シ金成不申候様ニ被仰候間、左様思召可被下候、次ニ若喜殿江ハ段々御咄仕候所、此度之指付之荷物江之引当金子も、又注文金子茂一度ニ御下シ被成様ニ、七日出シニ仕ル様ニ被仰候間、可然と奉存候、此未宣敷事も御座候ハ、拙者荷物相払帳下り可申候間、左様思召可被下候、早々恐惶謹言

中野惣七

六月十二日

今田弥兵衛様

八三一三 書簡(紅花不景氣に付)

尚々中物三拾式三兩ち六七兩迄、上物四拾兩ち三四
兩迄仕候、諸事藤左衛門殿様子御承り可被成候、右
相場二而も買すこみ不申候間、見合申候、就ハ商事
もながく罷成候ハ、越年ニも可罷成奉存候間、左
様ニ思召可被下候

榎藤左衛門殿下り便、一筆啓上仕候、然ハ寒冷罷成候へ
共、弥御堅勝ニ可被遊御座と、珍重奉存候、下拙無事ニ
罷有申候、扱々紅花不景氣ニ而氣毒ニ奉存候、然所ニ藤
左衛門殿御払候節、拙者荷物義ハ、老駄ニ付何も五六兩
の御そんニ而払兼候処ニ、只今ハ殊外のそんニ御座候
ハ、商事も仕兼候ハ、越年ニも罷可成奉存候間、左
様ニ思召可被下候、当月之下シ金義、金切ニ而工面仕候
へ共、成兼申候哉、無心元奉存候、たとい下シ金仕候と
て、老駄ニ付三拾兩位ならて無御座候ハ、た、五拾兩
計なくて成かたく御座候と奉存候、此金も今に出不申候

ハ、当十五六日か来月かも相不知不申候間、左様思召
可被下候、早々恐惶謹言

中野惣七

霜月十日

今田弥兵衛様

八四一一 覚(紅花仕入錢請取)

覚

一、錢三拾貫文 但し鏝也

右者当子之紅花仕入代之内被遣、髓ニ落手仕候、為念以
上

六月十九日

和市

田井

弥内殿

八四―二 覚（紅花仕入錢請取）

覚

一、錢貳拾貫文 鑑也

右者当子之紅花仕入錢之内、随ニ請取申候、為其以上

六月廿二日

和市

田井

弥内殿

八五 書簡（惣七荷物盗まれに付）

惣七殿方御こし被成候状面写（荷物盗まれ候事）

態一筆啓上仕候、段々暑氣甚敷成候処、弥々貴御地皆々様、御堅勝可被遊御座と、珍重奉存候、下拙義、ながく

御世話罷成、忝奉存候所ニ、今度下拙義、一生之あやまち仕、坂下江ちかつめ日くれ罷成候処ニ、あとさき方三人出荷物ヲをいおとし、其上拙者ヲおいまわし、拙者高約とほにくれ、何のなさけなく荷物取れ、荷物持も拙者もばらくに罷成、命計たすかり、わき道にげ、其上坂下ニ宿かり候処に、忝人もの宿かし不申、無寄仮にせきニ而この世を明し、夫方勢州ニ参りかと存候へ共、何分無申訳様ニ存候而、夫方心なていき不申、うるく仕下り申候へ共、中々国元江此手に而ハ参兼、何方ニも先とうりう可仕候と存候間、左様思召、国方江そい状宜敷様ニ被成頼入申候、何分拙者あなたこなた江も何共申訳無御座候故、此通罷成候間、御すいりう被成可被下候、残るものにハ出立もの、外ニ金八両計こしに付候間、少しヲちから任候

一、若喜様之書状ハとも皆々仕切、皆々書状迄無之候へハ、又ハ貴御地江相返り可申と存候へ共、又々このみちにも追而御状指上可申候、くさりハ候へ共、国元江何分宜敷書状願上申候、何分ふんしやうも出不申候間、宜敷

様ニ御状下し可被下候、何分奉願上候、若当秋今田浦城
方も、是ニ付差登り可申候間、拙者当年中ニハ下り兼
可申候間、右様ニ思召可被下候、何様ニも貴公様方之御
取なし頼入申候、かならずく宜敷御頼上申候、早々已
上

くわなち

六月廿五日

中野 惣七

伊勢屋理右衛門様

右之状六月卅日昼過小八つ時分

飛脚者と見江、みせへほふり込届ケ申候

八六 書簡(紅染屋との訴訟一件裁許に付)

一筆啓上仕候、時分柄残暑甚敷御座候得共、貴御地御家
門御揃弥御勇健ニ可被成御座、奉珍重候、次私共儀江戸

表從御奉行所御召ニ而、先月廿八日当着仕候、然ル所、
当月四日御勘定所小野日向守様、御役所ニ而願人並京都
紅染屋私共三方御召出ニ而、別紙書付之通被仰渡候、仍
之双方相済帰京仕候、商ひ事之儀者、三拾年以前之心得
ニ而商売仕候間、御荷物御用之儀、不相替被為仰付可被
下候、奉願上候、尤京都紅花景氣之儀、私共出立以後、
追々残古花直段宜敷相成申候段、書状ニ而申候、定而今
年者新花も相応相捌可申哉と奉遠察候、外ニ相替義無御
座候得共、去年中も永々紅花一件、江戸御公辺向及出入
候処、此度御裁許相済申候ニ付、右之段為御知申上度、
乍略儀御連名ニ而奉申上候、恐惶謹言

江戸族宿ニ而相認申候

七月六日

紙 屋 勘兵衛

若山屋勘右衛門

伊勢屋理右衛門

若山屋喜右衛門

池田屋 五兵衛

山形屋八郎兵衛

次第不同

田宮五郎右衛門様
細谷 庄右衛門様
鈴木 庄 七様
細谷 五郎兵衛様
真木 新 助様
今田 弥兵衛様
勝森 小 八様
市 藤三郎様
田宮 八兵衛様
柴崎 孫右衛門様
内藤 次郎兵衛様

藤屋 市左衛門
若山屋 又兵衛
若山屋 孫兵衛
伊勢屋 源 助
近江屋九郎兵衛
紙屋 治右衛門

西田 次郎兵衛様
日野屋七郎兵衛様
伊藤 佐兵衛様
真木 藤左衛門様
和田 太兵衛様
柴田 弥右衛門様
伊勢屋 善五郎様
兩所
和田 兵左衛門様
東根
三井 七右衛門様
同所
門脇 伊左衛門様
寒河江
安達 又三郎様
同所
中村 庄兵衛様
同所

大沼 三次郎様

新庄

遅沢 庄右衛門様

白岩

田中 弥右衛門様

右之通別紙請書証文相添、相廻し可被下候、此外御名前
落申候処御座候ハ、乍御面縦御廻し可被下候、尤御所
遠近不存候間、御勝手次第段御順達可被下候、右書付廻り
留り、私共内へ京得為御登之、物之次手ニ為御登可被下
奉願上候、以上

八七 書簡(紅花荷物大石田蔵入)

尚々送金之内老歩目不足在之、則御才料衆御返申上候、
此分其内御届ケ被下候様奉願上候

貴札恭致拜見候、如仰甚暑御座候へ共、御家内様弥御堅
勝被成御座、珍重奉存候、此方無為罷在候、然ハ然ハ此
度御印紅花御荷物つ出被下、無事着髓請取蔵入仕候、近
日中能舟積合早々酒田へ指下し可申候、尤手板金不申積
舟積仕様被仰下承知仕候、当出舟其内可申上候、追々御
用茂被仰聞被下度奉願上候、右御報迄早々恐惶謹言

(大石田)
六沢屋金十郎 印

七月七日

今田弥兵衛様

参人々中

八八 覚(や印紅花酒田船積通知)

覚
や二天 四丸 十七入

佐州 有田久四郎船

七月二日出船

同大 貳丸 十七入

同山 貳丸 十六入

老駄

藤塚や権右衛門船

同大 貳丸 十六入

同大 壹丸 十七入

藤木や三郎右衛門

同大 貳丸 十六入

同大 壹丸 十六入

米や源兵衛船

右之通夫々積入申、日和次第仕候間、左様御心得可申下候、出船次第為御知可申上候、以上

本間与次右衛門

七月七日

今田弥兵衛様

八九 書簡(紅花代金出入に付)

六月晦日出御状、当十五日相届忝拜見仕候、如仰御堅勝ニ被成御座、珍重ニ奉存候、此方不相替罷有申候、去秋中々惣七長逗留仕、御世話ニ相成忝奉存候、其上此度紅花代金取集、勢州へ罷下り坂下ニ而盜賊会、荷物紛失仕候由被仰下、察入申候、委細之紙面被仰下候、惣七方ハ態々人々下し被下候様、其上半マコかうも有之候ハ、御詮義可被成下段、是已頼ミ仕罷有申候、乍御世話何分惣七貴下様罷歸り申候ハ、仍て御尋被下候而、相成義ニ御座候ハ、御吟味被成下候様ニ奉頼候、右候ハ、惣七も相立義ニ御座候間、何分宜敷奉頼候、損毛上ノ損毛故、何方くれ此節難尽筆紙ニも奉存候、御推通可被下候、何分宜敷御吟味相成候様ニ奉頼候、委細跡方可申上候、支

配人為相登、年々毎不將成義、此後之商事仕候ハ、御任せ御頼申義ニ御座候、勿論少々仕入も追付出荷仕候間、其節書中を以可得御意候、此度之義ハ貴得御賢慮を以、商事ニ取統候様ニ御工面之程奉頼上候、右惣七不埒仕、帰国茂相成間敷、此所も氣毒御了簡を以、右紛失金藤々も取返申候ハ、惣七も相立、殊ニ私方ニ而も商事相統候義、此所何分宜様奉頼候、委細ハ近便ニ可申上候、恐惶謹言

今田弥兵衛

七月十六日

伊勢屋理右衛門様

御報

九〇一 書簡(紅花代金出入に付)

天童浦城伊兵衛御登、一筆啓上候、然者八月廿九日出し

之御細書、当月十九日ニ当着、慥ニ致拜見候、如貴命冷氣相成候処、弥御家内様御揃御勇榮ニ被成御入、奉珍重候、当方無異事罷在申候、然者追々被仰下候通、中野惣七殿御事、不慮成義之由ニ而、貴公様ハ御渡被成候紅花代金、相渡し不申候、近年打統拍子悪損毛、其去年中ハ格段之損金、猶又追々被仰下候通之悪行の旨、去迎て心外ニ存、其通ニ者難相成、併手懸りも無之、手段及工面候処、中野氏在所江帰家之由承之候間、一応催促仕候得共、何レ共挨拶不仕候間、不得止事地頭役所へ御訴詔申上候処、委細御尋之上聞届、国役所中江御文通被成下候得共、今以何之訳も不承候、併中野氏村預り之体ニ罷成候之由、視及承候、惣七殿御事御公料所ニ御座候間、此地ニ而ハ埒明申間鋪候条、御公訴も外有之間敷奉存候、右ニ付書面共之内ニ相調べ見候処ニ、二月中仕切目録諸指引相濟候趣、写し書被遣候処、何共相濟不申候二月中ニ代金御渡し被成筈ニ者無之様ニ奉存候、正月出書面着後、早速帰国為致、荷物を御任申上候旨被遣候、此方ニ而も難止得事共風聞御座候間、中々逗留仕候仁へ、二月

中ニ不殘代金御渡被成候御義、甚難心得御事ニ奉存候、然ル上ハ此地ニ而内証不結義有之、御馴合与奉存候、其詮も段々書面共相調へ見候処、三月六日出書状ニ、近便ニ差引殘金可差下趣被仰遣候間、右之一体其後何共御沙汰止被成候、御実体之御取計ひ与者不奉存候、中野氏逗留被致候ハ、直々此方へ金子御下し被成候得者、ケ様之不埒出来不仕候、畢竟御勝手筋有之哉、又者中野氏御取替両相成、此方差引へ入被成候様奉存候、正月出し御報も所持仕居、殊三月六日出し御書面之代筆両通、則当役所へも入熟覽置申候、何とやら仕切目録与諸差引写、惣七殿下し殘荷物御任申上与、御頼入遣候処、御互ニ書面共相調候得者、難相訳候、後而悪因縁ニも相成間敷哉、心外ニ相心得罷在申候。

一、大沼仲兵衛殿と庄門紅花片馬送り参候由、間違ニ御座候、此荷物之義ハ御同性源助様へ送遣候様ニ申遣候処、先年と貴丈様宿之義ニ御座候間奉存候、源助様御内平八殿へも頼遣申候、夫共御間柄之義ニ御座候間、被仰合可然御取計可被下候、源助様御方江荷物送り添状ニも申遣

置候、紅花に御座候間、定而御待可被成与奉存候、貴丈様御支配被成下候ハ、伊源様貴丈様も御断被仰立可被下候、鈔荷物ニ御座候間、支配之儀者何方ニ而不苦候、只願所拍子能御私申度計ニ御座候、右筆可得御意、如斯ニ御座候、恐惶謹言

九月廿一日

今田弥兵衛

伊勢屋理右衛門様

御報

九〇一二 書簡（紅花代金出入に付）

六月晦日出書状 （玉喰） 相達、忝拜見仕候、如貴命御家内様御揃御堅勝ニ被成御座、奉珍重候、当方無異事罷在申候、去秋中も惣七義越年仕候ニ付、当早春以書状申上候通、荷物共貴公様並若喜様御両家江、殘荷物御任帰国仕候様

二、惣七方江も申遣、勿論貴公様江も右之段得御意候処、天童伊勢屋荷物、江戸廻り差後、片付帰国可致趣、被仰下候処、貴公様御預り荷物相片付、其後逗留仕、先達而市庄次郎殿御下り便之御紙面二、紅花代金目録差引書共ニ御後被成候由、承知仕罷在候処、此度惣七義、勢州罷下り坂下ニ而盜賊出会、荷物紛失仕候由被仰下驚入、氣毒千万ニ外実共御察可被下候、委曲御紙面被成下候通、惣七方へ態人御下し御尋之上、半掛も有之候ハ、御詮義可被成下候段、是之已頼ニ存罷在候、惣七事貴公様へ御引寄被下候ハ、何方へ御尋被下候而、兎角金子ニ相成候様ニ御吟味被成下度、幾重ニも奉頼上候、近年打続損失、別而去年中仕入荷物ハ格段之損而已、其上ケ様之變難十方くれ、此所御推量可被下候、乍此上ノ手懸りも御座候ハ、宜御吟味奉頼上候、委細跡方可申上候、扨々支配人為相登、年毎之様ニ不埒成義出来、扨々心外成御事、此後商事仕候ハ、御任御頼申義ニ御座候、勿論当仕入も追付当地出荷仕候間、其節以書状可得御意候、此度之義ニ、貴公様御賢慮を以、紛失之金子取返候様ニ相

成候ハ、商事取続可申候、何分御工面之上、御吟味懸合奉頼候、右惣七不埒仕、帰国も相成間敷義、氣之毒ニ奉存候、右紛失金御座候も取返し候ハ、惣七義も相立殊ニ私方ニ而ハ商事相続仕義、此所御賢慮之上、何分宜様ニ御取計奉頼上候、遠国之義商事道宿頼候杯罷成候間、以重閑不相成様ニ懸合、御求宜様ニ奉頼上候、不忠變難故、前後致而已、乱筆御用捨可被下候、猶又追便ニ可得御意候、恐惶謹言

今田弥兵衛

七月十五日

伊勢屋利右衛門様

利兵衛様

追而天童伊勢屋喜兵衛殿式通、則相達受取差遣申候、谷地市庄次郎殿尅通、是又相達申候、以上

九一 覚（や印紅花大石田蔵入）

覚

へや印 三丸紅花

同印 式丸 同

外二 手板 式組

通り御判

御添状共

送金巻両卜老貫文

右之通り慥請取蔵入仕候、近日中能舟積合、早々酒田指

下し可申候、其内出舟可申上候、以上

六沢や金十郎 ㊦

七月廿三日

今田弥兵衛殿

九二 覚（千紅花代金請取）

覚

一、金巻両也

外六貫百廿文

都合式両也

右八千紅花代金之内受取申候、為念如斯ニ御座候、以上

七月廿九日

藤次郎 ㊦

弥兵衛殿

九三 書簡（へや印紅花酒田船積通知）

追啓上仕候、先月中八小三郎為差登何角と御世話被成下
恭奉存候、然者先達而紅花運賃金四両御下シ被下慥受取

申候、其節何角取紛早速書状も差上不申御無沙汰仕候段、御用捨可被下候、且夕先達而積付申上候^(マ)、^(マ)御印紅花^(マ)、^(マ)啓駄、佐州赤泊宇左見権七船、当七日爰許出船仕候、外^(マ)に^(マ)大^(マ)へ^(マ)同^(マ)老^(マ)駄、佐州松ヶ崎勝陰長五郎船積入、昨日出舟仕候、左様思召可被下候、扱又此間村上ちや老本為積登候間、其御地着次第御受取可被下候

一、此方当年者金子払底にて至三而難義仕候間、去年中差

引殘金、此小三郎二乍御無心御渡御かし可被下候、必々奉頼上候、右申上候通金子闇敷難義仕候間、乍くり事必々御かし可被下奉頼上候。

右義申上度、殊之外取込略仕候、此方御用儀追々被仰付被下度奉頼上候、尚追々可申上候、恐惶謹言

(酒田)

大沼仲兵衛

印

八月十日

今田弥兵衛様

参人々御中

九四 覚(紅花代金請取)

覚

一、金五兩

右紅花代髓ニ請取申候所、実正ニ御座候、為念如此御座候、以上

八月十二日

榑岡五日町

利兵衛

印

田井村

弥兵衛様

同村

久助様

同村

金八様

九五十一 書簡（紅花売買に付）

添翰を令下候御人帰便以手紙申上候、先以昨日者寛々得
貴意、預御馳走忝奉存候、明日御役所江罷上り可申と、
御約束申上候所ニ、折節明日当町役人雜時用向有之候由、
依之明日得参かね候、延々私を申候得共、明後朔日長瀬
へ参上可仕候間、御延し可被下候、朔日ニハ無間違参上
可仕候間、長瀬に而御出合可被下候、必々朔日ニ御出合
可被下候、為其貴意得度、如此御座候、以上

九月廿九日

自天童

今田弥兵衛様

浦城喜兵衛

用事

九五十二 書簡（紅花代金不払いに付）

態考人差遣し一筆啓上候、先日者罷上り寛々得貴意、大
慶仕候、然者昨日預御人委敷御伝言之趣、承知仕候、只
此方其意申上候通、弥昨日御役所へ願書指上申候所、
早速御取上ケ被下否、荷口村惣七五人組御名主方へ御差
紙出、則昨夜之内右御差紙、荷口へ相届ケ申候

一、此度御指紙之御趣、乍恐相察申候所、紅花代金来ル
廿三日迄ニ、金主方へ急度相濟下様ニと之御差紙と相
察申候

一、願書写し指上げ申候間、御入手可被下候
一、御役所へ申上ケ置ニハ、田井村弥兵衛殿方ニも、手
前同様ニ惣七方へ取替有之候、是も追付御役所へ願出
可申と申上ケ置候

一、右之外此もの口上にて申上候、御承知可被下候、甚
取込以略筆申上候、草々、恐惶謹言

浦城喜兵衛

八月十五日

今田弥兵衛様

貴下

九七一 書簡（紅花売買に付）

九六 覚（紅花代金請取）

覚

一、金拾貳両

右者紅花代値ニ請取申候、為念如斯御座候、以上

九月三日

利兵衛

与 八 印

彦兵衛

田井村

弥兵衛殿

浦城伊兵衛殿下り便ニ、一筆啓上仕候、先以貴御地貴公様皆々様御堅勝可遊御座候、珍重奉存候、下拙無事ニ罷有申候、然ハ紅花義、別而此間ハ不景氣ニ罷成、一向買人無之候所ニ、若喜殿へ御買被下様ニ申上候ハ、直附被致候処、中物三拾四五両、四拾両迄、上々一天物五拾両迄直こひ仕候、此直ニ而も少々老駄貳駄金つまり、御人相払申者有之候、天童浦城伊兵衛此間上京被致候而、最上中者三拾七両、女鹿五拾両ニ相払申候へ共、手前紅花ハ今又見合申候、扱々当年ハ御そん有之候而迷惑ニ奉存候、商事も不捌御座候間、越年ニも罷成候かと奉存候間、左様ニ思召可被下候、依之御相談被成、書状も被遣可被下候、此末少とも引上候ハ、少々も商可仕と奉存候、併御様子天童ニ御出被成候ハ、伊兵衛下り節御承可被下候、何共下直ニ而氣毒ニ奉存候、先々一向金切ニ相見江申候故、諸々引当金も成諷御座候間、来月之下シ

金も、少とも下シ金致度奉存候へ共、如何御座候哉、無
心元奉存候、工面仕取そがい可申候間、左様ニ得御心可
被下候、早々、恐惶謹言

十月廿二日

中野惣七

今田弥兵衛様

同 源蔵様

九七一 書簡（紅花代金差下しに付）

以飛脚申上候、弥々御地御堅固ニ可被遊御座、珍重奉存
候、下拙無事ニ罷有申候、然ハ今度金子百五拾両差下シ
申候、御請取可被下候、右之内百兩ハ酒田江御下様ニと
被仰遣候へ共も、一向酒田表ニついて無御座候と被申候
間、ふがつてと奉存候へ共差下シ申候、左様思召可被下
候、扱荷物へや^庄可印、へや^太三印此荷物式駄計着仕候、外ハ
金子着不仕候、右金子手前宿ニ金切レニ御座候故、若喜

殿方借用仕候、左様ニ得御心可被下候。

九月五日

中野惣七

今田弥兵衛様

同 源蔵様

追而申上候、紅花義ハ金子相場事一切無御座候、尚中間
時分ニハ相場も相定可申と奉存候、段々御状茂差上可申
候間、左様思召可被下候、早々、恐惶謹言

九七二 書簡（紅花不景氣に付）

以飛脚一筆啓上仕候、先以皆々様弥々御堅勝ニ可被遊御
座候、珍重奉存候、下拙義無事ニ罷有申候、然ハ当月十
六日出シ之下金、紅花不景氣ニ付、壹駄ニ付三拾兩計の
引当不申候ハ、何とも成兼候哉、無心元奉存候、何分金
切ニ御座候而迷惑奉存候、当分一向契出もの無之候ハ、

直付承候ハ、様々中物三拾式三兩五六七兩迄仕候、上物
四拾兩五四拾式三兩迄ニ申候、此直ニも荷がさは買込不
申候、何共氣之毒ニ奉存候、右金子義ハ段々工面仕、五
拾兩計茂借用相成候哉、無心元奉存候間、左様ニ思召可
被下候、早々、恐惶謹言

霜月六日

中野惣七

今田弥兵衛様

同 源蔵様

九七一四 書簡（紅花売払い代金に付）

尚々あと買花之御地ニ而、買人有之候ハ、少々

覚ニ御座候ハ、御払可被成候ハ、可然様奉存候間、

左様申上候

飛脚便ニ一筆啓上仕候、先以寒氣甚敷御座候へ共、弥々

其御地皆々様御揃御健勝可被遊御座と、珍重奉存候、下

拙不相替無事罷有申候、氣安思召可被下候。

十一月

一へや大印 三拾八兩替

十二月

一へや木印 四拾壹兩替

右之直段ニ而相払申候、何共当年之御そんふかく御座候
ハ、何共氣毒ニ奉存候、只今ニ而ハ早売不仕が残念奉
存候へ共、一寸崎相知不申、右直段ニ而ハ商仕筈ニハ有
御座間敷奉存候へ共、しせんも引上候らん時ニハ、又々
売おくれニも罷成候故、右通り売付申候、残り荷物ハ先々
見合申候、此未少々も引上不申候内ハ、来春迄売申間敷
と奉存候間、左様思召可被下候、然所ニ段々不景氣故、
書状も御出し候哉と待入候へ共、今又一通も相届キ不申
候ハ、無力罷有申候。

一、下シ金之義無之工面仕候へ共、下シ金高何方ニ而も

相改儉不申候ハ不及力、此通り仕合ニ而氣毒ニ奉存候、

只今金切申、一向借金仕不申候、皆ハ何共御なんき奉

存候共、何分工面成兼候間、左様思召可被下候、早々

恐惶謹言

十二月六日

今田弥兵衛様

中野惣七

荷物ニ御座候や相知不申候得共、貴家様御印故、御案内申上候、弥相違無御座候ハ、御安心可被下候、乍序申上候、以上

九月六日

いせ屋源介

善七

今田弥兵衛様

人々御中

九八 書簡（敦賀着紅花の手板に付）

追啓上仕候、然ハ今日敦賀清水仁兵衛殿と

左之通

へや極上 四丸

へや大木 四丸

へや大木 四丸

右之通無事着申来候得共、手板參不申候ニ付いつれ之御

九九 覚（へや印紅花酒田船積通知）

覚

へや紅木 紅花三丸 十八入

氷見や佐兵衛船

同紅大 同 三丸

能州輪嶋

角や多兵衛船

同紅木 卷丸 十七入

同吉次 卷丸 十六入

同長上 卷丸 十七入

三丸

能州輪嶋

加藤万之丞船

右之通当十三日着仕、則右三船積入申候、左様思召御案
心可被申候、右着積入旁申上度如此御座候、以上

本間与次右衛門 ㊦

七月十五日

今田弥兵衛殿

一〇〇 書簡 (紅花敦賀到着通知外)

恭次第奉存候、左候へハ晒蠟之代、先々当時相庭二而者

見合申様二被仰下相心得申候、扱々此方今頃者宜敷事も

御座候哉と奉存候所、存之外緩々此間能物四貫五百五十

匁替口出申候様成事二御座候、しかし此方も有増壳透候

様二相見へ申候

一、先去御取次申上候金子、先達而申上候通紅花荷為替

二而ハ御工面不宜候趣被仰下、金主方へ申訳置候間、

別而義理合之儀二御座候へハ、少トも早ク御濟被下候

様奉頼上候

一、紅花船敦賀無事着、左申上候

佐州相川

一、八月十六日着 磯野十左衛門船

一、八月十五日着 八田や七右衛門船

一、同 十六日着 越前や吉郎右衛門船

一、同 廿一日着 小林伊左衛門船

一、同 十六日着 かゝや弥四郎船

一、同日 着 有田久四郎船

一、同 廿一日着 北野や九郎兵衛船

追啓上仕候、
(虫喰) 喜兵衛指遣候、何哉と御世話被成下、

右之通無事着仕候由申來候、鍵や忠八船も定而其後無事着仕候様ニ、船宿にて申御事ニ御座候、左様思召可被下候、余者喜兵衛口上ニ可申上候、此方御用地御座候ハ、此ものニ可被仰下候、以上

偏ニ奉頼上候、先者右之段申上度早々如此ニ御座候、恐惶謹言

藤屋傳左衛門

傳二郎

九月廿三日

今田弥兵衛様

御人々御中

(酒田)
大沼仲兵衛 印

九月十四日

今田弥兵衛様

同 勝平様

尚々、御病氣御快全被成申候ハ、御見合四五日御逗留なから御出被下度御頼上候、猶又京行御状今日相届申候間、左様思召可被下候、以上

一〇一 書簡(大坂伊勢屋出し荷不着通知外)

巳刻

猶又貴家様行大坂いせ七出し老笹、今以着不仕候間、右者跡着次第差遣可申候、此段左様思召可被下候、其残等之儀も、此未追々候、且又被仰遣被下度奉頼上候直段之儀者、随分相働下直ニ差遣申候間、不相替御仕入被下度

一〇二一 書簡(荷物間違ひ積下しに付)

追而申上候、大坂羽釜之義、段々書状にも申越候処ニ、張伐と申所之荷物間違候而、積下シ申候言事ニ御座候、然所又々若松方ニ而調、相渡可申由、書状參候間、拙者張下り改可申と存候間、荷物御調被置可被下候とて状遣候、然共、只今下り不申候、追而拙者下り吟味仕、何様ニも可仕候間、左様得御心可被下候

十一月十日

一〇二二 書簡(紅花売捌きに付)

追而申上候、然所紅花不景氣様子ハ段々承候所、見込之御人無之候故、一向買すゝみ不申、なぜと申に、当正月売出し申荷物など、只今問屋方江相達候も可有之候、当

四月売付之荷物、若喜殿方へ紅屋方へ相返し申候事も有之候、無之事御座候間、不景氣能成候きやく衆方、紅屋方江取くみ候ハ、金半金も出不申候、何分問屋共売付申、未年方古花出申候、然所ニ来四月のべなとに売付申者御座候而、中々不景氣ニ而商事出不申候、何共御そんをく御座候而、迷惑奉存候、夫故拙者、貴公様之御荷物今又売出シ不申候、今未少々も直出買入御座候ハ、少々も相払可申奉存候、夫共をいをいニも御状出シ可被下候、以上

霜月六日

中野惣七

今田弥兵衛様

一〇二三 書簡(紅花代金送り状)

尚々申上候、大印五十卷両ニ出印四十八両ニ直附被致候、伊理・若喜ニ而左様ニ御座候、わき方ニ八直

付無之候、以上

以飛脚申上候、先達而九月四日出御状、忝致拜見候、干

花御^①被成候段、被遣候上物、四拾四五兩ニ京着仕候

ハ、宣敷御座候、金子義被仰付候間、此度金切ニ御座

候間、様々相調百兩差下シ申候、御請取可被下候、下し

金貳兩相添、此金子ハ拙者内方江御遣可被下候、扱又紅

花義ハ先月少々商出申所、渡会善右エ門・西川源助・山

形兩屋手代市村宇蔵・大石田勘七杯、買花三十五六兩方

上物五十四五兩迄売出申候、夫よつて当月ハ紅屋方ニ而

買す、み無御座候相見候而、一向不商御座候、拙者何と

も見合申候、此未如何御座候哉と奉存候間、宣敷も罷不

成候ハ、越年ニも相成候か、無心元奉存候、御様子書

状も被遣可被下候、しぜん元金ニも罷成候ハ、少々茂

商可致哉と奉存候、左様思召可被下候

十月六日

中野惣七

今田弥兵衛様

同 源蔵様

一〇三 覚 (紅花代金差引勘定)

覚

①一、金三拾四兩

拾五匁三分

拾六入

へや大印 四丸

同 印 九袋

へ考た九袋

現金三拾兩かへ

①一、金三兩四匁三分七厘

へや大印 七袋

へ

現金貳拾八兩かへ

卯十一月六日売付代之内端銀預り

①一、四匁五分

へ

金三十拾七兩

式拾四匁壹分七リ

内へ

辰三月十五日

⑩歩判金三十拾兩

弥内様御参宮御道中入用金

為替相渡シ

⑩三匁六分 右歩判切ちん

⑩一、金壹兩三歩 右利足

拾四匁 三四五六七八九

ノ

⑩一、丁四百廿一文 へや印五固

代五匁四分七リ 手板表不足

中村佐右衛門殿相渡ス

⑩一、八匁貳分五 へや印五固

大津あたちん

川口弥蔵殿ニ 相渡ス

ノ

金三十拾壹兩三歩

三十拾壹匁三分貳リ

取替金引

引残而

金五兩拾匁三分五厘

右通此度鳴飛脚を以差下シ無出入相濟申候、尤端銀拾匁三分五リ是者下シちん之内へ預り置可申候、差引過不足之所者来秋御互ニ御勘定可仕候、先々右御引合御覽被遊可被下奉願上候、以上

近江屋九郎兵衛 ⑩

十月八日

今田弥兵衛様

一〇四 覚（紅花代金請取）

田井村

弥兵衛殿

覚

一、金拾兩三分也

右者紅花代金之内金八殿以右金髓ニ請取申候、以上

東根

六兵衛 印

十月六日

田井村

弥兵衛殿

覚

一、金五兩也

右者紅花代金之内金八殿以右金髓ニ請取申候、以上

長瀨村

庄 六 印

十月六日

一〇五 書簡（紅花上着藏入）

（封書上書）

「羽州最上谷地田井村

若山屋

今田弥兵衛様

勘右衛門」

用人

（封書裏書）

一ノ〇〇

從京都

十月廿五日出し

」

福島飛脚便を以一筆啓上仕候、寒冷之節御座候処、先以
其御地御家内御揃弥御勇健ニ可被遊御座奉珍重候、当方
無異義罷有候間、乍憚責意易思召可被下候、然り此度御

荷物左之通

覚

へや^大上^二印紅花四丸 但し拾八袋入三

拾九袋入卷

内ニチリ五袋有

右之通海陸無事ニ当月十五日ニ上着仕候而、御互ニ目出

度儘ニ請取蔵入仕候、先以不相變追て御荷物為御登候、

御用被仰付被下候段、外聞旁忝仕合ニ奉存候、

一、右御荷物着仕候ハ、金子三拾兩尾州知多郡藤江村

安德寺様へ、差下し為候様被仰下承知仕候、則右之通

り金子三拾兩当月十七日ニ安德寺様へ差下候間、左様

思召可被下候、

一、当月五日ニ式朱判百廿兩江戸へ向差下し、彼地ニ而

嶋屋佐右衛門殿方ニ而正金ニ取替差下し被申候、善ニ御

座候、定而着仕御請取可被下と奉察候、式朱判替之義、

此間江戸表と申参り候、貴家様分百兩ニ付六拾匁に御

座候、左様思召被下候

一、爰元紅花之義、先書後別而相変ル義無之候、今以聡

と商事も無之、気毒ニ奉存候、御印御荷物之義、何卒

兼々売付申度、無油断吟味仕罷有被申候へ共、右申上

候通り、不景氣故只今宜キ望人も無之候、此未無油断

相働、兼々売付御左右可申上候、先ハ右申上度、早々

如斯ニ御座候、猶期重便之時候、恐惶謹言

若山屋

十月廿五日

勘右衛門 ㊦

七次郎

与兵衛

又兵衛

今田弥兵衛様

弥次郎様

与 七様

一〇六 差引書覺(紅花代金)

差引書覺

荷高拾五駄片馬

伊勢屋理衛門殿方

紅花八駄片馬拾袋

差引殘而

金四兩壹分銀九匁七分五厘

内三駄拾五袋紅花前金受取候故差附二送遣申候
此代金ノ三百五十兩三分銀五十四匁三分

内

金百兩

戌五月十六日出受取

一〇七 紅花代金覺

同五拾兩

戌七月十七日出受取

同百兩

戌十月六日出受取

紅花代金覺

同拾三兩壹分

同相分 仕切表二而濟

一、紅花拾五駄拾六袋 但壹駄四固附

同壹兩壹分銀五拾壹匁六分

壹固五百目入拾六袋

歩利切賃並二

此弘訳

京都

下し金駄賃仕切表二而濟

紅花八駄式固拾袋

伊勢や理右衛門仕切写表

同銀五拾式匁九分五厘

紅花駄賃不足

内三駄拾九袋紅花前金請取候故差附二送遣申候

仕切表二而濟

此代金ノ三百五拾兩三分銀五拾四匁三分

金四拾五兩

喜衛門江濟方相渡ス

小以

金三百九兩貳分

銀百四匁五分五厘

紅花六駄式固六袋

若山や喜右衛門差引書写表

金四拾五兩

仕切り表ニ而済

内卷駄四袋庄内酒田大沼仲兵衛仕入紅花則差附送

右同人ら喜右衛門江濟方相渡

遣申候

ス

三駄卷固拾式袋当亥春差附ニ送遣申候

金式百式拾九兩三分

喜右衛門方ら差引表ニ而受取

此代金式百九拾式兩三分銀式拾八匁九分

銀五拾四匁九分

喜右衛門方ら差引表ニ而受取

金七兩卷歩銀拾卷匁七分若山や喜右衛門ら惣七請取

金卷兩

谷地村甚兵衛惣七ら借用

是ハ去戌九月喜右衛門方ら紅花仕入代金殘相渡り

金

………(以下切レ)………

候分

合金六百五拾兩三分銀五拾四匁九分

内

金百兩

い勢や理右衛門ら

一〇八 残り花覚

紅花前金借用

金五拾兩

右同断

残り花覚

金百兩

右同人ら下し金

一、大^二印 卷駄八袋

若勤殿行

金拾三兩卷分

右同人江相金仕切表ニ而済

一、同印 ちり六袋

同人殿行

金卷兩卷分

右同人江歩判切實並ニ

一、大^二印 五袋

同人殿行

銀五拾卷匁六分

下し金駄質仕切表ニ而済

一、大^二印 三丸卷袋

同人殿行

銀五拾式匁九分五厘

右同人江紅花駄質不足

一、大^二印 六袋

同人殿行

一、大天 ちり九袋

同人殿行

二、大庄 同 壹袋

同人殿行

ノ貳駄壹丸四袋

内壹丸ちり

貳駄四袋紅花

一、大上 壹駄壹丸八袋

近九殿行

一、大天 壹駄壹丸三袋

同人殿行

一、大上 ちり七袋

同人殿行

一、大谷 壹駄八袋

同人殿行

ノ三駄三丸拾袋

内七袋ちり花

三駄三丸三袋紅花

二口ノ六駄拾四袋

内壹丸七袋ちり花

一〇九 相場書

相場左

一、御米札 十七表六部

一、最上大豆 三十五俵半

一、小豆 三十六俵小口物

一、小豆 三拾五俵七部 はねなし

大上物 壹石三斗

一、小麦 壹石壹斗五升

一、竹原塩 貳石六斗五升

一、小麥 跡廿石五升

但壳透申候間俵貫ハ被成間敷候

一、村上茶三番 四兩ろ

一、秋味 四兩壹分位

右同断奉願上候

一、秋味 四拾壹本

貳拾かへ利付

九ノ四百匁

百斤り

百貳拾斤迄

六貫文

此方為登物左ニ

一、塩三百俵都合 叶屋

一、村上茶三拾壹本 同人

一、同 三拾本 本与

浅久仕入

一、塩百俵都合 同人

一、同五拾俵 本塩

浅久り受取分

一、鯨壹桶 同人

先達而申上候分

一、秋味拾七固 同人

拾本入廿八九匁着 同断

一、同三拾四五固 同人

同断ニ而三拾匁仕候着 跡貫付

右之通ニ御座候、諸色此方追々引上ケ申候間、御考可被下候、秋味之儀者着次第御売払可被下候、猶又天童売付塩之儀、買返しニ可被成奉願上候、将又大豆之儀、只今下直ニ御座候得共、一昨日本与方江上方注文參り候所、船手衆三十三・四俵ノ望に御座候間、来春ニ相成候ハ、

三拾俵ニ者相成可申候、左候得者、只今相場ニ而も壹割も利遠ニ相成可申候間、思金一箇支度奉存候間、上方様子承度乍思長逗留仕候、将又先達而り此方金子切ニ而、本与方り漸く借用仕、叶屋渡江相渡し申候、是も以之外延引相成相渡し申候、其上金子借用仕候も相成兼、無勘蔵増江山形為替金之儀、内八両為替取組遣申候者、不覚成事ニ思召被成候者、御尤ニ奉存候、日限延引ニ相成候得者、塩之儀下蔵ニ而売払申候と申事ニ御座候間、少分なから不益成事ニ御座候間、写込残金本り方り借用仕受取申候、此段御用捨可被成下候、且又能キ大豆ニ御座候而

茂、貳拾両ニ而引合申間敷候間、残り大豆の儀者御買入被成間敷と奉頼上候

御下り候ハ、相渡し可申候間、左様思召可被下候、何れ宜御取上奉頼上候、以上

一、越前丹後辺貳三部之作合申来候、是も丸や半助様と書状申参候間、相違なき事ニ御座候、其故越後辺も大豆石老斗位ニ相成申候、尤一昨日当所いせや叶又杯も上方と御下り被成候得共、穀相場下直ニ御咄被成候得共、此衆あて二者相成不申、上方程又者本相場ニ奉存候、伊せや杯も内々ニ而ハ、昨日米少々も買入申候様ニ相聞申候、左候得者、上方も穀物下直二者有之間敷と奉存候、能々御考可被遊候、猶罷帰り申候節、万端貴細ニ可申上候、先者旁得貴意度、如此御座候、恐惶謹言

十一月二日

同 与七

今田弥兵衛様

弥次郎様

追啓申上候、蔵増庄次郎殿御下り被成候ハ、為替金八両ハ御渡し可被下候、尤百六両共受取金御座候間、